

令和5年度

「基礎学力調査」

— 分析・考察と指導事例 —

令和5年10月
石川県教育委員会

目 次

本書の構成 1

I 教科に関する調査結果の分析・考察

II 質問紙調査の分析・考察

本書の活用にあたって 2

I 教科に関する調査結果の分析・考察 3

《小学校第4学年国語》 6

《小学校第4学年算数》 12

《小学校第6学年社会》 20

《小学校第6学年理科》 26

《小学校第6学年英語》 32

《中学校第3学年社会》 40

《中学校第3学年理科》 46

II 質問紙調査結果の分析・考察 53

1 小学校第4学年児童の調査結果 55

2 学習・生活状況と正答率との関係 62

3 教員の調査結果 64

本書の構成

I 教科に関する調査結果の分析・考察

- (1) 全体的な傾向の分析・考察
・全体的な結果の状況

- (2) 領域・分野ごとの分析・考察
・領域・分野ごとの結果の状況
児童生徒の到達状況を下表のように表記した。

正答率	「到達状況」を示す記号、用語
90%以上の場合	◎：良好である
80%以上～90%未満の場合	○：概ね良好である
70%以上～80%未満の場合	◇：基準に到達している
60%以上～70%未満の場合	▽：十分とはいえない
60%未満の場合	▼：不十分である

- ・分析・考察及び学習指導に当たって留意すべきこと等
- ・参考となる他の指導事例や過去の調査問題
- ・指導改善のポイント

- (3) 改善に向けた指導事例
・教科ごとに、改善に向けた指導事例を2事例記載し、以下の内容を示す。

	項目	内容
①	問題と解答の状況	・設問番号、領域・分野、出題のねらい、評価の観点 ・関連問題 ・正答例、誤答例、正答率、誤答率、無解答率
②	指導改善に向けて	・解答状況の分析・考察 ・指導改善の具体的なポイント
③	改善事例	・学年、単元（指導内容等） ・指導のねらい ・具体例

- ・関連する「学びの12か条^{プラス}」（巻末資料参照）の項目を右のように示す。

学びの12か条+ ○

II 質問紙調査結果の分析・考察

- (1) 小学校第4学年児童の調査結果
・設問ごとの経年比較、学年間比較
- (2) 学習・生活状況と正答率との関係
・正答率との関係を基にした分析・考察
- (3) 教員の調査結果
・設問ごとの経年比較

本書の活用にあたって

「教科に関する調査結果の分析・考察」のページでは、以下のように、取り上げた問題に関連した指導事例や調査問題、指導にあたって留意すべきこと等を記載してあります。今後の授業の参考、取組の検証にご活用ください。

○学校第○学年 教科

県平均正答率	学校正答率
○○. ○%	%

(1) 全体的な傾向

(2) 領域・分野ごとの分析・考察
 【領域・分類名】 (県平均正答率: ○○. ○%) (学校正答率: %)
 ○: 出題の趣旨 (設問番号)

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
○	○	○○. ○%	%
○	○	○○. ○%	%
○	○	○○. ○%	%

(県) H○○: 事例○ (県) R○○: ○○

指導改善のポイント

□ (→事例1)
 □ (→事例2)

① 参考となる他の指導事例

② 参考となる調査問題

③ 学習指導にあたって

④ 指導改善のポイント

学校正答率記入欄 (自校の正答率を記入して、分析に活用してください。)

学校正答率記入欄

① 参考となる他の指導事例

以下の略称を用いて記載しています。

- (全) …「全国学力・学習状況調査 報告書」及び「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」に掲載されている事例
- (県) …「基礎学力調査－分析・考察と指導事例－」に掲載されている事例
- (P) …WEB サイト「いしかわ学力向上プログラム」に掲載されている事例

② 参考となる調査問題

以下の略称を用いて記載しています。

- (全) …全国学力・学習状況調査で出題された問題
- (県) …本県の基礎学力調査で出題された問題
- (P) …WEB サイト「いしかわ学力向上プログラム」に掲載されている評価問題

③ 学習指導にあたって

取り上げた問題について、調査結果を受け、学習指導の改善・充実を図る際のポイントを、箇条書きで記載しています。

④ 指導改善のポイント

今年度の調査結果より、特に課題が見られた問題について、指導改善のポイントを記載しています。

I 教科に関する調査結果の分析・考察

小学校 第4学年
「国語」「算数」

小学校第4学年 国語

県平均正答率	学校正答率
56.9%	%

(1) 全体的な傾向

令和5年度の平均正答率は56.9%で、4年度より8.3ポイント下回り、到達状況は不十分である。「書くこと」領域の到達状況は不十分であるが、4年度より5.9ポイント上回り、改善が図られている。「知識及び技能」の到達状況は十分とはいえず、「話すこと・聞くこと」領域、「読むこと」領域の到達状況については不十分である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【知識及び技能】 (県平均正答率:61.4%) (学校正答率: %)

◎：小学校3年生までに配当されている漢字を読むこと〔七③④〕

設問七③④の正答率については、94.9%であり、良好である。漢字の読みについては、今後も当該学年の漢字の読みを覚えさせる指導だけではなく、文や文章の中で使われているその漢字について、文脈の中での意味と結び付けて読むことができるように指導することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
七	③ 漢字の読み(旅行)	94.5%	%
	④ 漢字の読み(起きる)	95.3%	%

▽：小学校2年生までに配当されている漢字を書くこと〔七①②〕

設問七①の正答率については、64.0%と十分とはいえず、②の正答率については、58.7%と不十分である。指導に当たっては、当該学年の前の学年に配当されている漢字について、ただ書いて練習させるだけでなく、文や文章の中で使う習慣を身に付けられるように指導することが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
七	① 漢字の書き取り(ゆみや)	64.0%	%
	② 漢字の書き取り(ならず)	58.7%	%

▼：主語と述語との関係について理解すること〔三3〕

設問三3の正答率については、39.9%であり、不十分である。主語と述語との照応が大切であることについて理解を深めるために、話すときや書くときだけではなく、文章を読むときにも、主語と述語の適切な係り受けについて意識できるような指導を工夫する必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
三	3 主語と述語との関係	39.9%	%

(県) R1：事例1

(県) R1：三4(2)

【話すこと・聞くこと】 (県平均正答率：56.1%) (学校正答率： %)

◇：話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えること〔一4〕

設問一4の正答率については、76.3%であり、基準に到達している。今後も、事柄の順序など、話の組み立て方を意識しながら要点をまとめたり、自分の目的や聞きたいことを明確にして聞いたりすることができるような指導が大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
一	4 話の中心(聞くこと)	76.3%	%

(県) H30：事例1

(県) R4：一4 R2：一5

▼：話の中心や話す場面を意識して、間の取り方を工夫すること〔一3〕

設問一3については、p.8参照。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
一	3 間の取り方(話すこと)	26.9%	%

(県) H27：事例1

(県) R4：一2 R2：一3

- ・間を取ることは、話し手にとって、自分が伝えたいことを聞き手に理解してもらうために必要であることに、気付くことができるような指導を充実させること
- ・自分の話し方について、客観的に振り返ることができるような指導を充実させること

【書くこと】

(県平均正答率：51.7%) (学校正答率： %)

▽：相手や目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること【八1】

設問八1の正答率については、62.9%であり、十分とはいえない。指導に当たっては、相手や目的を意識し、伝えたいことが明確になるように文章の構成を検討したり、その過程で、集めた材料の比較・分類を通して内容の再検討をしたりするなど、構成の検討と内容の検討を往還する学習活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
八 1	集めた材料の比較や分類	62.9%	%

(県) R4：事例2

(県) R4：八1 H26：八1

▼：自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること【八2内容】

設問八2内容の正答率については、39.8%であり、不十分である。指導に当たっては、報告する文章の特徴に基づき、自分の考えと、それを具体的に説明するために取り上げた事例を区別して書くことができるように指導を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
八 2内容	考えの形成、記述(内容)	39.8%	%

(県) R1：事例2

(県) R4：八2 R1：八2

【読むこと】

(県平均正答率：48.3%) (学校正答率： %)

▼：段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること【二3】

設問二3については、p.10参照。
指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
二 3	説明的文章の構造と内容の把握	49.6%	%

(県) H27：事例2

(県) R4：二1

筆者の考えがどのような事例によって説明されているのかを、順序を表す言葉や、話題とのつながりのある言葉に着目して捉える学習活動を充実させること

▼：文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと【二4】

設問二4の正答率については、28.4%であり、不十分である。要因としては、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことを基に、考えを形成させる指導が不十分だと考えられる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
二 4	考えの形成	28.4%	%

(県) H30：事例2

(県) R4：二2

指導に当たっては、そのような学習過程を大切にしながら、文章を読んで何を理解したのかを明確にして、考えを形成する学習活動を充実させることが必要である。

指導改善のポイント

- 話し手の立場に立って間を取る必要性に気付くことができる学習活動や、客観的に自分の話し方を振り返ることができる学習活動を充実すること (→ 事例1)
- 筆者の考えが、どのような事例によって説明されているのかを、言葉に着目して捉える学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

学びの12か条 + 1・4・7

ア 事例1

話し手の立場に立って間を取る必要性に気付くことができる学習活動や、客観的に自分の話し方を振り返ることができる学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
□ 3	話すこと・聞くこと	話の中心や話す場面を意識して、間の取り方を工夫することができる。	思考・判断・表現

□ 3 山本さんのグループは、練習の様子を動画にきつえいし、それを見て、ふり返っています。次は、山本さんと同じグループの青木さんの発言です。□□□□にあてはまる言葉を書きましょう。

【発表台本】の(写真を見せる)(間)のところ、間をとるのが短すぎると思いました。もっと間を長くしないと、□□□□ので、分かりやすい発表にならないと思います。

正答例	誤答例	
(もっと間を長くしないと、) ・聞いている人に、つぶが大きいことが伝わらない ・聞いている人が、写真をしっかり見るができない (ので、分かりやすい発表にならないと思います。)	(もっと間を長くしないと、) 分かりやすくない (ので、分かりやすい発表にならないと思います。)	
正答率(準正答率) 26.9%(6.6%)	誤答率 63.4%	無解答率 9.7%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「話の中心や話す場面を意識して、間の取り方を工夫することができる」であり、正答率は26.9%と不十分である。この要因として、間を取る必要性について考えさせる指導が、聞き手の立場に立って考えさせる指導にとどまり、話し手の立場に戻って、伝えたい内容と関連付けて考えさせる指導にまで至っていないことが考えられる。

指導に当たっては、話し手にとって間を取ることが、自分の伝えたいことを、聞き手に理解してもらうために大切であることに気付かせることが必要である。また、話し方について聞き手からアドバイスをもらったり、自分が話している様子を動画に撮影して、話し方を確かめたりするなど、客観的に自分の話し方を振り返らせる指導が必要である。

③ 改善事例 第3学年

つたえたいことを、理由をあげて話そう
外国のことをしょうかいしよう

光村図書三年下
東京書籍三年下

1 指導のねらい

- ・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話することができる。(知識及び技能(1)イ)
- ・話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。(話すこと・聞くこと(1)ウ)

2 具体例

言語活動：わたしたちの地域の自慢したいことを見つけて、その理由をあげて話そう

単元計画	回数	内容
単元計画	第一次	1 これまでの話合いの学習を振り返り、他校の児童に自分たちの地域を自慢したいという意欲をもち、学習計画を立てる。
	第二次	2 3 4 ・自慢したいことやその理由を出し合い、他校の児童に伝わりやすい発表になるよう必要な資料を集めたり、インタビューをしたりする。 ・グループで発表原稿の組み立てを考え、発表原稿を作る。
	第三次	5 6 7 8 ・他校の児童に伝わりやすい話し方を工夫しながら、発表原稿を作り、グループ同士で話し方の工夫について助言し合う。 ・発表会を開き、話し方の工夫についてよかったところを伝え合う。

第三次 5時: 他校の児童に伝わりやすい話し方を工夫しながら、グループで発表原稿を作る。

第二次までに「有名な文学者の和歌が彫られた石碑があるお寺を自慢したい」という目的意識をもって、学習を進めてきている。

＜自分たちの伝えたい自慢を伝えるには、どんな話し方の工夫ができるかな＞



お手本になる発表を見て、どんな話し方の工夫に気がきましたか。

※教科書の二次元コードを読み取り、お手本になる発表の動画を活用することを想定している。

話し手に注目してもらうために、「みなさん」とよびかけたり、注目してほしいところを指で示しながら話をしたりしていました。



絵を見せた後に「間」を取っていました。どうして間を取ったのかな。

絵を見せた後に「間」を取っていたから、分かりやすい発表になっていたね。



話し方の工夫について、いろいろな気付きがありましたね。分かりやすい発表に向けて、話し手が「間」を取るのは、どうしてなのか考えてみましょう。



聞き手が、絵をじっくり見ることができて、分かりやすいからだと思います。

聞き手に絵をじっくり見てもらえると、どうして「分かりやすい」発表になるのですか。
【児童が話し手として、「間」を取る必要性に気付くための発問】



話し手が「間」を取ると、聞き手に電話機の「5」のところに小さな出っ張りがあることが分かってもらえます。

つまり、話し手は、聞き手に分かっ
てほしいことをしっかり伝えることができるんだね。



話し手として伝えたいことを聞き手に分かってもらうために、発表原稿のどこで間を取ればいいのか、グループで話し合っ
て発表原稿を作りましょう。発表原稿ができたら、発表の練習をしましょう。

グループで交流



ぼくは、石碑に彫ってある有名な和歌に気付いてほしいから、写真を見せた後に和歌が読めるくらいの長さの「間」を取りたいな。



「この写真を見てください。」を発表原稿に書き込んで、その後に「間を取る」と書き込むといいよね。

【発表原稿】
わたしたちが生まれたのは、「明達寺」です。じまんしたい理由は、「明達寺」には、有名な文学者「暁鳥はや」の石ひがあるからです。
その石ひには、わ歌がほられています。それは、「十億の人に 十億の母あらむも 我が母にまさる」です。この写真を見てください。(写真を見せる) (間を取る) 略

第三次 6時: グループで発表の様子を端末で撮影し、他のグループと話し方の工夫について助言し合う。

＜自分たちの伝えたいことが、聞き手に伝わる話し方になっているかな＞



伝えたいことが聞き手に伝わる話し方になっていたかどうか、発表の様子を振り返りましょう。



発表原稿に「間」を書き込んで練習したけれど、ぼくたちの伝えたいことが、聞き手に分かってもらえる「間」になっているかな。



「間」をもう少し長く取った方が、和歌を最後まで読むことができたと思うよ。

「間」をもう少し長く取った方が、和歌の意味を考えながら、石碑を見ることができたと思うよ。



「間」を取っているつもりだったけれど、もう少し「間」を取った方が、伝えたいことが聞き手に伝わり分かったよ。聞き手の様子を見ながら、「間」を取るようになるね。



「間」をもう少し長く取るように気を付けて、もう一度発表の様子を動画に撮影してみよう。そして、自分たちでその様子を振り返ってみたいな。

イ 事例2

筆者の考えが、どのような事例によって説明されているのかを、言葉に着目して捉える学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
二 3	読むこと	段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。	思考・判断・表現

二 3 南さんは、【本】を読んで、擬態には二つのタイプがあることに気づきました。その二つのタイプを、段落のまとまりで正しく分けているものはどれですか。次のア～ウから一つえらび、その記号を書きましょう。

ア ②と③・④・⑤ イ ②・③と④・⑤ ウ ②・③・④と⑤

正答例		誤答例	
ウ		イ	
正答率	誤答率	無解答率	
49.6%	46.2%	4.2%	

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる」であり、正答率は49.6%と不十分である。この要因として、文章全体の構造を捉える際、どのような理由や事例が「中」のまとまりに書かれているのかを捉える指導にとどまり、その理由や事例と筆者の考えとの関係を捉える指導にまで至っていないことが考えられる。

指導に当たっては、筆者の考えがどのような事例によって具体化されているのかを、順序を表す言葉や話題とつながりのある言葉に着目して捉え、筆者の考えと事例との関係を捉える学習活動を充実することが必要である。

③ 改善事例 第3学年

れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう
世界の家のつくりについての考えを深めよう

光村図書三年下
東京書籍三年下

1 指導のねらい

段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。 (読むこと (1) ア)

2 具体例

言語活動：学校図書館を利用し、事典や図鑑をつかって、分かったことを説明しよう

単 元 計 画	第一次	1	・食べ物がいろいろな食品にすがたを変えていることを知り、食べ物のひみつを説明する文章を書くという学習の見通しをもつ。 ・「すがたをかえる大豆」を読み、筆者の説明の仕方について疑問に思ったことを話し合っって課題作りをし、学習計画を立てる。
	第二次	2 5	・文章の構造や筆者の考えを捉える。 ・ <u>筆者の考えと事例との関係について、叙述を基に捉える。</u>
	第三次	6	・学校図書館の事典や図鑑を読み、感想や説明の仕方について分かったことを友達に伝える。 ・学習を振り返り、食べ物のひみつを説明する文章を書くときに生かしたいことをまとめる。



みんなで作った課題の中から、<筆者は考えを伝えるために、説明の仕方をどのように工夫しているのか>について考えてみましょう。今までの学びを振り返って考えるといいですね。

既習を生かして課題について考えようとしている児童



前の時間で学習した筆者の考えを確認し、「中」に書かれた例とのつながりを考えてみようと思います。



自分の考えをもつために注目した叙述に線を引いて、気付いたことがあったら書き込んでみましょう。友達と相談したい人はいつでも相談していいですよ。

既習を想起しているが、課題と結び付けて考えることができていない児童



2年生で学習した「まず」「次に」「それから」など、順序が分かる言葉に注目してみようと思います。

既習を想起できず、課題を解決するための見通しもつことができていない児童



どの言葉に注目したらいいのか分からないけれど、「中」に例が書かれているから、「中」を読もうと思います。



筆者は、「大豆のよいところに気づき、食事に取り入れてきた昔の人々のちえにおどろかされます。」と述べているから、おどろきが伝わる順に例を挙げているのかな。



筆者の考えを捉えられているから、考えと事例との関係も捉えられそうだな。



順序を表す言葉が見つかったよ。「いちばん」「次に」と書かれているから、分かりやすい順に例を挙げているのかな。



例に着目できているから、次は友達との交流を通して、考えと事例の関係に気付くことができるようにしましょう。

交流を促す



読んでもよく分からないから、写真を手掛かりに考えてみようかな。



例を並べ替えることを通して、まずは順序を表す言葉に気付くことができるようにしましょう。



「中」の各段落の1文目に着目して、端末のカードを順に並べ替えてみましょう。

友達と交流



「はじめ」に書かれていることとつなげて考えると、「おいしく食べる工夫」が分かりやすい順だと思います。



「目に見えない小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふう」と書かれているから、納豆はみそやしょうゆの仲間だと思う。だから、4番目に挙げられていると思うよ。



「いちばん分かりやすいのは」と書いてあるから、分かりやすい順だと思うけれど、何が分かりやすいのかな。



確かに。すがたが分かりやすい順に例を挙げているのだとしたら、納豆が4番目に挙げられているのは、おかしいな。納豆が4番目に挙げられているのは、なぜかな。



順序を表す言葉に注目したら、事例を並べることができたよ。事例は、分かりやすい順に挙げられているのかな。



「分かりやすい順」とは、「何が」分かりやすいのですか。



題名が、「すがたをかえる大豆」だから、すがたが分かりやすいものから順に並べられているのかな。でも、納豆は大豆の形に近いのに、4番目に挙げられているのは、なぜかな。友達の考えを聞いてみよう。



全員、順序を表す言葉に着目して考えることができましたね。では「いちばん分かりやすいのは」と書かれていますが、何が分かりやすいのですか。

【児童が事例と話題との関係に気づき、筆者の考えと事例との関係について考えるための発問】

「いちばん分かりやすいのは、…おいしくするくふうです。」は、「はじめ」の「…おいしく食べるくふうをしてみました。」とつながっていると思うよ。だから、分かりやすいのは、おいしく食べる工夫だと思うよ。



確かに。おいしく食べる工夫が簡単なものから難しいものの順に例が挙げられているよ。筆者は、このように説明を工夫することで、昔の人々のちえに驚かされたことを伝えたいのだね。

小学校第4学年 算数

県平均正答率	学校正答率
66.0%	%

(1) 全体的な傾向

令和5年度の平均正答率は66.0%で、4年度より2.6ポイント上回ったが、到達状況は十分とはいえない。「数と計算」領域は、4年度より1.2ポイント上回り、基準に到達している。「図形」領域は、4年度より2.3ポイント上回っているが、依然として課題がみられ、不十分である。「測定」領域は、4年度より11.2ポイント上回り、改善が図られているが、到達状況は十分とはいえない。「データの活用」領域は、4年度より9.3ポイント上回っているが、到達状況は不十分である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【数と計算】

(県平均正答率：73.6%) (学校正答率： %)

○：整数や小数の四則計算をすること〔1〕

設問1の正答率については、81.7%であり、概ね良好である。今後も、計算の技能が、算数科の基礎として確実に身に付くよう、児童の学習状況を見ながら、反復による学習の機会を適宜設けて指導を行うことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1	(1) 繰り上がりのある加法計算	93.7%	%
	(2) 波及的繰り下がりのある減法計算	83.1%	%
	(5) 小数+整数	81.4%	%

(県)H27～R4：1

○：図に示された数量の関係を読み取ること〔2(4)〕

設問2(4)の正答率については、82.7%であり、概ね良好である。元年度の関連する設問の正答率と比べても、18.3ポイント上回っており、改善が見られる。今後も、数量や数量の関係に着目して、図を用いて表すこと、図を用いて考えを伝え合うことを丁寧に指導することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2	(4) 二つの数量の倍関係	82.7%	%

(県)R1：2(5)

【図形】

(県平均正答率：51.1%) (学校正答率： %)

▼：長方形の定義について理解すること〔4〕

設問4の正答率については、10.5%であり、不十分である。4年度の関連する設問と比べると、正答率は4.5ポイント下回っており、無解答率も10.9%と高く、依然として課題がみられる。要因として、図形の定義(意味)や性質について正しく理解させる指導が不十分であると考えられる。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4	長方形の定義【事実】	10.5%	%

(県)R4：事例1 R3：事例2

(県)R4：2(6) R3：2(6)

- ・定義と異なる表現を児童が用いたり、説明が不足していたりするときには、どこが間違いか、どこが不十分かに気付かせるように問い返しを行い、正しい図形の定義を理解できるように指導を行うこと。
- ・性質に着目した誤答が多い場合は、4年度の事例1参照。また、「直角」という用語を適切に使っていない誤答が多い場合は、3年度の事例2参照。

▼：箱の形の辺と頂点の数について理解すること〔8〕

設問8については、p.14参照。
指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
8	直方体の辺の数と頂点の数の理解	51.9%	%

- ・立体図形の意味や性質について学習する際には、平面図形と同様に、頂点、辺、面といった図形を構成する要素に着目させる指導を行うこと
- ・実際に立体をつくったり、分解したりする数学的活動を通して、頂点、辺、面の個数について調べ、構成の仕方を考えさせる指導を行うこと

【測定】

(県平均正答率：69.2%) (学校正答率： %)

◎：重さについて適切な単位を理解すること〔2(1)〕

設問 2 (1)の正答率については、96.8%であり、良好である。4年度
の関連する設問の正答率と比べると、
57.4ポイント上回っている。今後も、
具体物を観察するなどの体験を通して、
基本的な量の大きさについての感覚を豊かにさせる指導を行
うことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2 (1)	重さと適切な単位	96.8%	%

(県)R4：8(2)

▼：必要な情報を用いて、指定された長さを求めること〔9(1)〕

設問 9 (1)の正答率については、57.9%であり、不十分である。4年
度の関連する設問の正答率と比べる
と、21.5ポイント下回っている。要
因として、問題で表された数がどんな量を表しているのかを確認させたり、単位について理解させたりする指導が不十分であることが考えられる。指導に当たっては、形式的に問題を処理するのではなく、問題に出てきた数がどんな量を表しているのかを確認し、解決の見通しをもたせ、適切な単位を選択することで、測定して得られた数が扱いやすい大きさになることを理解することができるような学習活動が大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
9 (1)	長さの単位と測定	57.9%	%

(県)R4：8(1) R3：8(2)

【データの活用】

(県平均正答率：57.8%) (学校正答率： %)

▽：データを分類整理し、表に表すこと〔3(1)〕

設問 3 (1)の正答率については、67.3%であり、十分とはいえない。3年
度の関連する設問の正答率と比
べると、24.7ポイント下回っている。
要因として、目的に応じて、資料を表に整理するとき、どんな項目で表をまとめていくのかを確認させたり、表の中の数の意味を理解させたりする指導が不十分であることが考えられる。指導に当たっては、表にまとめる際に、元の資料と表を見比べて、落ちや重なりがないか調べたり、合計欄の数が正しいかどうか計算して確認したりするなど、誤りが起きにくいような方法を工夫することができるような学習活動が大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3 (1)	データの分類整理と表の作成	67.3%	%

(県)R3：3(1)

▼：表の意味を理解し、表を読むこと〔3(2)〕

設問 3 (2)については、p.16 参照。
指導に当たっては、次のような点
を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3 (2)	簡単な二次元表の数値の意味【事実】	38.8%	%

(県)R4：6(1) H28：5(1)

- ・二次元表の中の数が表す事柄について、その数が何を表しているのか、項目だけでなく単位にも着目して表現できるように指導を行うこと
- ・表から資料の特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことについて、表のどの部分から考えたのかを、ほかの人にも分かるように伝えることができるように指導を行うこと

指導改善のポイント

- 正方形や長方形の面で構成される箱の形をしたものについて、観察したり、構成したりして、図形を構成する要素の理解を深める学習活動を充実すること (→ 事例1)
- 目的にあった方法で、資料を分かりやすく整理することを通して、表の意味を理解し、表を用いて表したり、表を読んだりする学習活動を充実すること (→ 事例2)

ア 事例1

正方形や長方形の面で構成される箱の形をしたものについて観察したり、構成したりして、図形を構成する要素の理解を深める学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
8	図形	箱の形の辺と頂点の数について理解している。	知識・技能

8 さとしさんは、図1のような箱の形を、ひごとねん土玉かんせいを使ってつくろうと思い、図2のようにとちゅうまでつくりました。箱の形を完成させるには、ひごとねん土玉が、あとどれだけいりますか。次の①～③に入る数を書きましょう。

図1

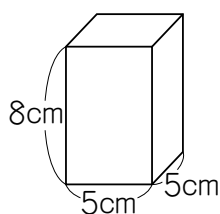
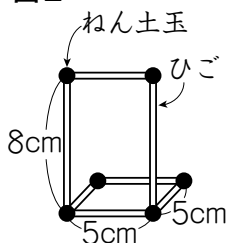


図2



「5cmのひご」があと①本、
 「8cmのひご」があと②本、
 「ねん土玉」があと③こ
 いります。



正答例	誤答例		
① 3 (本)	① 4 (本)	① 8 (本)	① 8 (本)
② 2 (本)	② 2 (本)	② 4 (本)	② 4 (本)
③ 2 (こ)	③ 2 (こ)	③ 8 (こ)	③ 6 (こ)
正答率 51.9%	誤答率 41.4%	無解答率 6.7%	

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「箱の形の辺と頂点の数について理解している」であり、正答率は51.9%と不十分である。誤答については、ひごやねん土玉の数について、不足分ではなく、図に描かれている分も含めた数を答えているものが多い。この要因として、辺や頂点の数を知識として理解させるだけではなく、平面で描かれた図を立体でイメージしたり、制作過程のイメージをもったりすることができるように、箱などの形を実際に作らせる指導が不足していることが考えられる。

指導に当たっては、例えば、6枚の長方形や正方形を貼り合わせて構成した箱や、12本のひごを用いて構成した箱など、箱の形をしたものを、観察したり、実際に作ったりする活動を丁寧に行うことが必要である。また、辺の長さの違う立体を実際に組み立てるという活動を通して、立体図形を構成する要素に気付くようにすることも必要である。

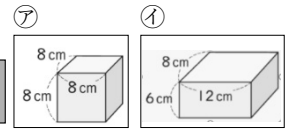
③ 改善事例 第2学年「はこの形をしらべよう」

1 指導のねらい

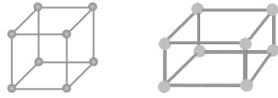
箱の形をしたものを観察したり、構成したりする活動を通して、図形を構成する要素を理解することができる。

2 具体例【違う形の箱を2種類作り、共通点を見つける活動】

㊦や㊧の箱を提示して、ひごとねん土玉を使って、箱の形を作らせる活動を行う。



㊦や㊧の形をつくることはできましたか？



㊦は簡単に作れたけど、㊧が難しかったよ。



㊧は辺の長さが違うから、どういうふうに組み立てたらいいのかわかりません。



ねん土玉は、8個あれば作れるよ。



ひごの長さはいろいろあるけれど、向かい合っている辺が同じ長さになるように組み立てるとできそうだね。



ということは、6 cm、8 cm、12 cm のひごが4本ずつあれば作れるな。



全員㊧も作れましたね。では、㊦と㊧の箱をつくってみて、気付いたことはありますか？

ねんど玉を8個使ったのは、㊦も㊧も同じです。



長さは違うけれど、㊦も㊧も使ったひごの数は全部で12本です。



ねんど玉やひごの数は、箱の形の何の数を表していますか？

ねんど玉の数は、箱の頂点の数を表しています。



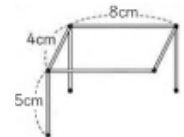
ひごの数は、箱の辺の数を表しています。



【制作途中の箱を見て図形を構成する要素に気付かせる活動】



先生は㊧の箱の形を作っていたのですが、途中で材料が足りなくなりました。完成させるには、あと、ひごを何本、ねんど玉をいくつ用意すればいいですか。先生に教えてください。



それぞれの長さのひごは4本ずついるから、4 cm、5 cm、8 cm のひごが、今のところ何本使われているかわかれば、引き算をして求めることができるね。



ということは、4 cm のひごはあと2本、5 cm のひごはあと1本、8 cm のひごはあと2本います。



ねんど玉は7個使われているから、頂点の数の8から7を引いてあと1個いることが分かるね。



みなさん、辺や頂点の数に着目して、ひごやねん土玉があとどれだけ必要かを求めることができますね。では、ペアになり、途中まで箱の形をつくって、あとどれだけひごやねん土玉が必要になるか、お互いに問題を出し合ってみましょう。



算数・数学の学習用デジタルツールを活用することも考えられますが、画面上の操作だけで終わらせることなく、実際に直方体や立方体を作ったり、分解したりする活動を積極的に取り入れ、図形についての感覚を豊かにしましょう。

〔第1学年〕「はこの形」
形を作ったり分解したりすることを通して、形の構成の仕方について考える学習活動

〔第4学年〕「直方体と立方体」
立体図形を平面図形に表したり、逆に平面図形から立体図形を構成したりする学習活動

イ 事例2

資料を目的に合った方法で、分かりやすく整理することを通して、表の意味を理解し、表を用いて表したり、表を読んだりする学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
3(2)	データの活用	表の意味を理解し、表を読むことができる。	知識・技能

③ 南小学校の3年生は、総合的な学習の時間に野菜を育てることになり、育てたい野菜を「トマト、キュウリ、ナス」の中から1人1しゅるいえらびました。下の図は2組の21人が、それぞれえらんだ野菜の絵を黒板にはったものです。

さとしさんは、1組と2組の人たちがえらんだ野菜をしゅるいごとに調べ、下のような表に整理しています。あとの問いに答えましょう。

しゅるい	1組	2組	合計
トマト	9	9	18
キュウリ	5	②	
ナス	8		
合計	22	21	43

(2) 表の18は、何を表していますか。表の中の言葉を使って書きましょう。

正答例	誤答例	
<ul style="list-style-type: none"> 1組でトマトをえらんだ人数と2組でトマトをえらんだ人数の合計 1組と2組でトマトをえらんだ人数の合計 	<ul style="list-style-type: none"> トマトの合計の数 1組と2組がトマトをえらんだ合計 トマトをえらんだ人の数 	
正答率 (準正答率)	誤答率	無解答率
38.8% (4.1%)	57.9%	3.3%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「表の意味を理解し、表を読むことができる」であり、正答率は38.8%と不十分である。誤答については、「トマトの合計」のように、表の2つの項目だけに着目した表現や、「トマトをえらんだ人数」のように、表題や項目の言葉を適切に使えていない表現が多く見られる。この要因として、データを分類する観点や単位に着目させて表を読ませたり、表の中の数値が何を表しているのかを、表題や各項目の言葉を用いて適切に表現させたりする指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、データを分類整理して二次元の表に表したり、二次元の表を考察したりする活動を設定することで、表の中にある数値が何を表しているのかを理解させることが必要である。また、表の中の数値の意味を表現させる際、不十分な場合には、表の項目に着目させて必要な事項に気付かせたり、数の意味を考えさせたりする問い返しを行うなど、適切な表現ができるように指導する必要がある。特に、合計の意味を問う場合については、表題や項目、単位に着目させて、表現させることが大切である。

③ 改善事例 第3学年「表と棒グラフ」

1 指導のねらい

簡単な二次元の表について理解し、読み取ることができる。

2 具体例 複数の表をまとめた二次元の表を読み、考察したことについて話し合う活動

4月・5月・6月のけが調べの結果から、けがの様子について、どんなことが分かるでしょう。

【簡単な二次元の表に表す学習活動】

各月のけがしらの表を、1つに分かりやすく整理する活動を通して、表の意味を理解させる。

【簡単な二次元の表を読む学習活動】

4月から6月にけがをした場所とその人数（人）

場所	月	4月	5月	6月	合計
校庭		9	11	6	25
体育館		5	9	10	24
ろう下		4	5	8	17
教室		2	3	1	6
その他		3	1	2	6
合計		22	29	27	78



表の中の数字は何を表しているのかを考えていきましょう。



表の中の「25」は何を表していますか。

校庭の合計を表していると思います。

横の列が「校庭」で、縦の列が「合計」なので、校庭の合計でいいと思います。

でも、校庭は1つしかないよ。校庭の合計が25って変じゃないかな。

最初は、児童の不十分な考えをしっかりと取り上げていく。



たしかに校庭は1つなので、校庭の合計ではなさそうですね。「校庭」や「合計」以外の言葉にも着目して、正しく伝わる言い方をみんなで話し合ってみましょう。

単位は「人」だし、表の題名をみると、「4月から6月にけがをした場所とその人数」になっているから、校庭の数じゃなくて、「～の人数」にしないとイケないね。

表題や項目、単位に着目させながら、適切な表現ができるように指導する。

何の人数になるのかな？ 校庭の合計の人数？

けがをした人数を調べているから、校庭でけがをした人数の合計だよ。

校庭でけがをした人数の合計で、分かるかな？

表の題名を見ると、「4月から6月にけがをした場所とその人数」と書いてあるね。



では、話し合いをもとに、「25」が何を表しているか、相手に正しく伝わるように説明してください。

相手に正しく伝わる表現を児童に言い直させる。

「25」は、「4月から6月に校庭でけがをした人数の合計」を表しています。



相手に正しく伝えるためには、どんなことに気をつければいいですか？

「校庭」と「合計」だけではなく、単位に着目して、「表の題名」にある言葉も使うと、相手に正しく伝わると思います。



では、ペアになってその他の数がどんな数を表しているのかをお互いに確認してみましょう。



POINT 児童の表現が不十分である場合には、表のどこに着目するとよいのかを問い返し、学級全体で吟味しながら正しく伝わる表現となるよう話し合っていくことが大切です。

【第4学年】「データの分類整理」
二次元の表に表したり、それを読んだり、表とグラフを関連付けたりする学習活動

【第2学年】「簡単な表やグラフ」
簡単な表に表したり、表を読んだりする学習活動

小学校 第6学年
「社会」「理科」「英語」

小学校第6学年 社会

県平均正答率	学校正答率
57.0%	%

(1) 全体的な傾向

令和5年度の平均正答率は57.0%で、4年度より11.3ポイント下回り、到達状況は不十分である。日本の領土の位置を読み取ることについては、正答率は不十分ではあるが、4年度より26.5ポイント上回っており、改善が見られる。しかし、複数の資料から読み取った情報を関連付けて考え、適切に表現することについては、依然として課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【地域学習】 (県平均正答率：60.4%) (学校正答率： %)

◎：石川県の全体の地形の様子を理解すること〔1(1)A〕

設問1(1)Aの正答率については、90.3%であり、良好である。今後も自分たちの県の様子について調べたり、

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1(1)A	石川県の自然(白山)	90.3%	%

位置や地形、産業、交通などの県の特徴を総合的に考えたりして、

(県)R4：1(1)②

調べたことや考えたことを、白地図などにまとめて表現できるように指導することが大切である。

◇：自然災害から人々を守る活動について、資料を基に考察し、適切に表現すること〔1(4)〕

設問1(4)の正答率については、73.9%であり、基準に到達している。今後も、地域で起こり得る災害を想定しながら、

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1(4)	自然災害への備え	73.9%	%

ハザードマップに示されている情報を読み取り、それを活用して、災害が起きたときに自分自身の安全を守るための行動の仕方を考えたり、自分たちにできる災害への備えを選択・判断したりすることができるように指導することが大切である。

▼：実際の距離について、地図帳から、読み取ること〔1(2)②〕

設問1(2)②については、p.22参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1(2)②	縮尺の活用	41.9%	%

(県)R4：1(2) R3：1(1)⑤

- ・実際の距離や地図上の距離を調べる活動を通して、縮尺の意味を理解させること
- ・縮尺の異なる様々な地図を活用することを通して、縮尺を活用することのよさに気付かせること

▼：浄水場の仕組みについて、資料から、必要な情報を読み取ること〔4(1)A〕

設問4(1)Aの正答率については、37.9%であり、不十分である。要因としては、水が供給されるまでの経

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4(1)A	浄水場の仕組み(ちんでん池)	37.9%	%

路について調べさせたり、その仕組みや意味について表現させ

(県)R3：4(1)

たりする指導が不十分であると考えられる。指導に当たっては、浄水施設の段階ごとの仕組みや役割などについて調べ、それらを、図表などにまとめたり、自分の言葉で説明したりする活動を充実させることが必要である。

【産業と国土】

(県平均正答率:53.9%) (学校正答率: %)

○：我が国の国土の地形を理解すること〔2(3)②〕

設問 2(3)②の正答率については、88.0%であり、概ね良好である。今後も、我が国の主な山地や山脈、平野、川、湖、島、半島などの地形について、位置を確かめたり、調べたことを白地図にまとめたりする活動を継続することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2(3)②	日本の地形(奥羽山脈)	88.0%	%

▽：世界の主な大陸について理解すること〔2(1)②〕

設問 2(1)②の正答率については、64.2%であり、十分とはいえない。要因としては、世界の主な大陸の名称と、その位置や広がりについて理解させる指導が不十分である

(県)R2：2(1)②

ことが考えられる。指導に当たっては、地球儀や地図帳、衛星写真などを活用し、大陸や海洋について、その位置関係や形、大きさなどに着目し、大局的に捉える活動を充実することが必要である。

▼：世界における我が国の位置と領土について、地図帳から、読み取ること〔2(2)②〕

設問 2(2)②の正答率については、43.8%であり、不十分であるが、4年度の関連する設問と比べると、正答率は26.5ポイント上回っており、改善が見られる。今後も、世界における我が国の国土と位置について、緯度や経度を用いて説明する活動を充実させる必要がある。その際、位置を1カ所に限定するためには「北緯・南緯」、「東経・西経」を使って表現する必要があることを、理解させることが重要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2(2)②	日本の位置と領土(西端の経度)	43.8%	%

(県)R4：事例1

(県)R4：2(2)② R3：2(1)③

▼：米づくりの効率化が図られてきたことについて、複数の資料を基に考察し、適切に表現すること〔5(4)②〕

設問 5(4)②については、p.24 参照。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5(4)②	米づくりの工夫(効率化)	14.7%	%

- ・ 根拠となる資料を自分で選び、それを基に、課題に対する自分の考えを説明する学習活動を充実させること
- ・ 何のために必要な情報なのか、目的を明確にした上で、表題や数値、項目などに着目しながら、必要な情報を取り出す学習活動を充実させること

指導改善のポイント

- 地図帳を効果的に活用し、必要な情報を適切に読み取る活動を充実すること (→ 事例1)
- 複数の資料から課題解決に必要な情報を読み取り、それらに関連付けて考察し、適切に表現する活動を充実すること (→ 事例2)

ア 事例1

地図帳を効果的に活用し、必要な情報を適切に読み取る活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
1 (2)②	地域学習	実際の距離や位置について、地図帳から、読み取ることができる。	知識・技能

- 1 小松市に住んでいるかなさんとお母さんは、七尾市の祖父の家に出かけることになり、地図を見ながら話し合っています。学校で使っている地図帳〔帝国書院51～52ページ〕を参考にして、あとの問いに答えましょう。

かなさん：「**①**小松市から七尾市までは、どうやって行くの。」
 お母さん：「列車で行こうと思っているの。」
 かなさん：「小松駅を出発したら、列車の窓から、石川県で一番高い山の（**A**）と、一番長い川の手取川が見えるかな。」
 お母さん：「見えると思うよ。そういえば、おじいちゃんが、**②**真脇遺跡や白米千枚田などに連れて行ってくれるらしいよ。」
 かなさん：「うれしいな。石川県で一番大きい島の（**B**）にも行きたいね。自然が豊かで、イルカウォッチングもできるらしいね。」
 お母さん：「自然は、**③**災害を起こすこともあるけれど、観光にも生かされているね。行くのが楽しみね。」

- (2)② 小松市の市役所と七尾市の市役所までの距離は、直線でおよそ何kmになりますか。市役所の位置を示す地図記号をもとに、書きましょう。

正答例	誤答例	
(およそ) 85 (km)	90、8.5、850	
正答率	誤答率	無解答率
41.9%	49.2%	8.9%

② 指導改善に向けて

本設問のねらいは、「実際の距離や位置について、地図帳から、読み取ることができる」であり、正答率は41.9%と不十分である。誤答としては、「90」のように、地図上の距離の計測自体に課題がある解答や、「8.5」「850」のように、地図上の距離は計測できたが、実際の距離を正しく算出できていない解答が見られた。要因としては、縮尺を正しく読み取らせ、地図上の距離から実際の距離を調べさせる指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、遠足の目的地など、実際に行ったことのある場所までの距離を、地図を活用して測定させることで、経験を生かして距離を体感させることが必要である。さらに、「石川県の北端から南端までの距離」や「北海道から沖縄までの距離」など、実際に行ったことのない任意の2点間の距離についても、実際に体感したことのある距離と比較させるなど、児童が身に付けた距離感を生かして距離を測定することができるように、指導を工夫することが必要である。その際には、地図サイト等を端末で活用させ、必要に応じて自由に拡大・縮小させることを通して、縮尺のよさについても実感させることが大切である。

③ 改善事例 第4学年「都道府県の様子」

1 指導のねらい

地図上の2点間の長さを測定し、縮尺を基に実際の距離を求めることができる。

2 具体例

ポイント①：実際に遠足で行った場所などを取り上げ、距離についての感覚を想起させる。



先日の遠足では、1時間30分歩いて〇〇公園まで行きましたね。何km歩いたと思いますか。

遠足で行った場所が示された地図
【1/25000の地図】

※距離と道のりの違いについても押さえること

すごく楽しかったけれど、1時間30分も歩いたから、とても疲れたよ。何km歩いたのか、この地図を使って分からないのかな。



【学習問題】〈実際の距離を、地図を使って調べるにはどうすればいいのかな〉



地図は、実際の地形や距離などを縮めて描かれています。この地図と定規を使って、学校と〇〇公園までの距離を求めてみましょう。

まずは、定規で学校と〇〇公園までの長さを測ってみよう。私は、11cmだったよ。



定規の0cmのところを、学校の場所とずれているよ。きちんとあわせて測ったら、12cmになるはずだよ。



定規で測った長さから、どうやって実際の距離を求めますか。何か手がかりになる情報はありますか。



この「4cmで1km」のように、どのくらい縮めたのかを表したものを「縮尺」と言います。では、これを使って、実際の距離を求めてみましょう。

地図に「4cmで1km」と書いてあります。



4cmで1kmだから、〇〇公園までは、 $12\text{cm} \div 4\text{cm}$ で、3kmだね。3km歩くのに、1時間30分かかったね。



縮尺が分かると、地図と定規だけで簡単に距離が求められるね。

ポイント②：縮尺を活用することのよさを感じさせるとともに、普段の生活体験を生かして距離を体感させる。



今度、石川県の◇◇市に行こうと思っているのですが、学校のある□□市からどのくらいの距離があるでしょうか。それぞれの市役所のある場所を示す地図記号をつないでみましょう。

「楽しく学ぶ小学生の地図帳（帝国書院）
p.51、52参照
※R2～R5年度使用
【1/100万の地図】

定規で8.5cmだったね。縮尺は4cmで1kmだったから、計算すると、2.25km…。本当かな。



それじゃ、〇〇公園よりも近くなるよ。さっきの地図と違って、もっと広い範囲が描かれているから、縮尺も違うんじゃないかな。

縮尺を確認すると、1cmが10kmだったから、85kmになるよ。この地図上では近く見えるけれど、実際にはすごく遠いね。遠足で3km歩くのに1時間30分かかったことを考えると、85kmは遠すぎて、歩くことはできないね。



では、地図を使って、自分が行ったことのある場所や行ったことがない場所など、いろいろな場所の距離を測ってみましょう。

ポイント③：児童自身の距離感を生かしながら、地図上の任意の2点間の距離を自由に測らせることで、縮尺を活用する技能を身に付けさせる。

※世界の都市との距離を測る際は、適切な地図を使うこと

端末で地図サイト等を活用し、自由に拡大・縮小する操作などを通して、楽しみながら縮尺を活用することのよさを実感させる工夫も必要である。

イ 事例2

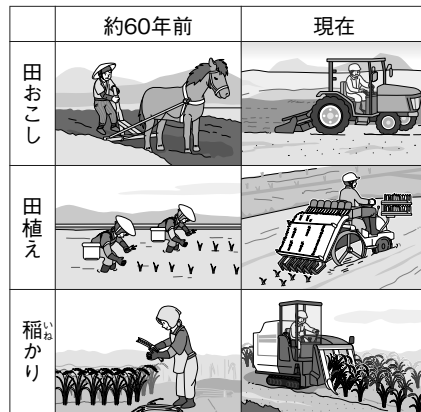
複数の資料から課題解決に必要な情報を読み取り、それらを関連付けて考察し、適切に表現する活動を充実すること

① 問題と解答の状況

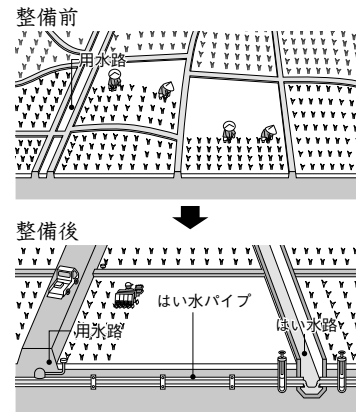
設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
5(4)②	産業と国土	米づくりの効率化が図られてきたことについて、複数の資料を基に考察し、適切に表現することができる。	思考・判断・表現

5(4)② 下線部について、収穫量が増えているのに、年間耕作時間が減っている理由として考えられることを、資料6と資料7をもとに、書きましょう。

[資料6] 農作業の変化



[資料7] 田の変化



正答例	誤答例	
<ul style="list-style-type: none"> 作業に機械を取り入れたり、水田を大きく整備して作業がしやすくなりして、短い時間で広いはん囲の米づくりができるようになったから。 機械で作業したり、用水路や排水路を整備したりして、農作業や水の調節が簡単になったことで、効率のよい米づくりができるようになったから。 	<ul style="list-style-type: none"> 機械を使うようになったから。 手作業から機械を使用して作業するようになったことで、短い時間で米づくりができるようになったから。 	
正答率（準正答率）	誤答率	無解答率
14.7% (9.9%)	63.8%	21.5%

② 指導改善に向けて

本設問のねらいは、「米づくりの効率化が図られてきたことについて、複数の資料を基に考察し、適切に表現することができる」であり、正答率は14.7%と不十分である。また、無解答率も21.5%と高い。誤答としては、「機械を使うようになったから。」など、2つの資料のうち片方だけに着目した解答や、2つの資料に共通するイラストにのみ着目して、表題を確認できていない解答が多かった。要因としては、資料の情報を確認させたり、複数の資料から読み取ったことが分かるように表現させたりする指導が、不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、目的を明確にした上で、何を読み取るべき資料なのかを確認するなど、課題解決につながる情報を丁寧に読み取る学習活動や、読み取った情報を関連付けて考えを説明する学習活動を充実することが必要である。その際、児童自身が目的に応じた必要な資料を選択する学習活動を、段階的に取り入れることも重要である。

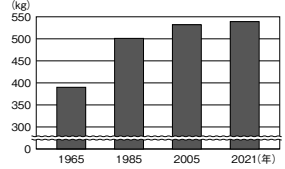
③ 改善事例 第5学年「我が国の農業における食料生産」

1 指導のねらい

複数の資料から課題解決に必要な情報を読み取り、それらを関連付けて考察し、適切に表現することができる。

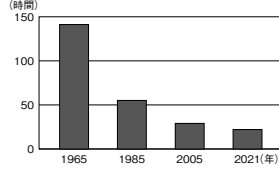
2 具体例

〔資料1〕全国の10aあたりの米の収穫量の変化



(資料1・2ともに農林水産省資料より作成)

〔資料2〕全国の10aあたりの年間耕作時間の変化



2つの資料から、どんなことが分かりますか。

米の収穫量が増えてきているということは、耕作時間も増えているかと思ったけれど、反対に減ってきているね。どうしてかな。



【学習問題】〈収穫量は増えているのに、耕作時間が減っているのはどうしてか〉



収穫量は増えているのに、耕作時間が減っているのはどうしてだと思いますか。(予想を立てる)

農作業に機械を使用するようになったからじゃないかな。



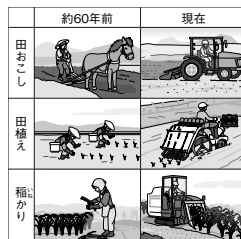
農業をする人が増えたから、短時間で作業ができるようになったんじゃないかな。

ポイント①: 見通しをもち、自分の考えを説明する根拠となる資料を、児童自身に選ばせる。

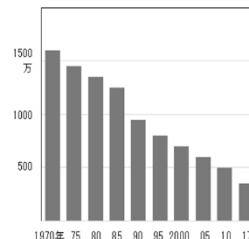


皆さんが立てた予想について、この中の資料を使って友達に伝えてみましょう。(目的を明確にして解決の見通しをもたせる)

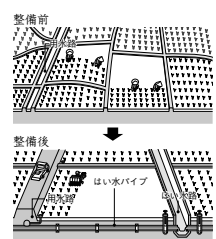
〔資料3〕農作業の変化



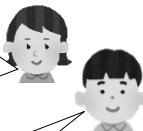
〔資料4〕農業で働く人数の変化



〔資料5〕田の変化



私の「機械を使用するようになった」という予想は、資料3を見たら正しいことが分かるよ。でも、資料5にも機械の絵があるから、それを使うともっと説得力が高まるかな。



資料5は、表題が「田の変化」だから、機械化のことを伝えたい資料じゃないと思うよ。別の予想に使えるんじゃないかな。

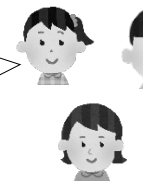
資料4の「農業で働く人数の変化」を見ると、農業で働く人の数は、どんどん減ってきている。僕の予想は外れていたよ。

ポイント②: 資料の表題に着目し、資料の内容を適切に読み取らせる。



本時の学習問題について、より説得力のあるまとめになるように、一人一人の考えをもとにグループで話し合ってみましょう。(調べた内容を共有する)

資料3から、昔に比べ、機械を使って作業するようになった様子分かるね。だから、「収穫量は増えているのに、耕作時間が減っているのは、機械を使うことによって、作業時間を短縮できるようになったから」というのはどうかな。



僕は、予想が外れていたのでも、資料5を使って考えてみたよ。「田の変化として、用水路やはい水パイプが整備されたことで、米づくりに欠かせない水の調節に時間をかけなくてもよくなったから」ではどうかな。

二人の意見を合わせて、「機械で作業したり、用水路や排水路を整備したりして、農作業や水の調節に時間がかからなくなったことで、効率のよい米づくりができるようになったから」とした方が、より説得力のあるまとめになるのではないかな。



複数の資料を関連付けて説明すると、自分の考えがより確かなものになり、説得力が高まりますね。

ポイント③: 複数の資料を関連付け、学習問題に対して考えたことを、適切に表現させる。

小学校第6学年 理科

県平均正答率	学校正答率
60.2%	%

(1) 全体的な傾向

令和5年度の平均正答率は60.2%で、3年度より3.4ポイント下回り、到達状況は十分とはいえない。領域別では、「生命」を柱とする領域は、平均正答率は68.3%と十分とはいえないが、3年度より0.5ポイント上回っている。「エネルギー」を柱とする領域は、平均正答率は48.0%と不十分であり、依然として課題である。また、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想し、表現する問題については、3年度から継続して課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【物質・エネルギー（エネルギー）】 (県平均正答率:48.0%) (学校正答率: %)

▼：実験結果を基に、学習課題に正対するまとめを考えること〔3(1)〕

設問3(1)については、p.28参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3 (1)	学習課題に正対したまとめの吟味【検討・改善】	12.2%	%

(全)R4：2(3)

- ・何を明らかにするために実験を行うのか、目的を明確にさせること
- ・考察やまとめを行う際は、再度、学習課題に立ち返らせて、何を考察したり、まとめたりすればよいかを確認させること

▼：手ごたえなどの体感を基に、磁石の極の性質について表現すること〔8(1)〕

設問8(1)については、22.6%であり、不十分である。要因として、普段の授業の中で、児童の不足した表現について、児童自身に気付かせたり修正させたりせずに、教師が修正して言い換えてしまっていることが考えられる。指導に当たっては、科学的な言葉を用いて児童自身が適切に説明する活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
8 (1)	磁石の極の性質【分析】	22.6%	%

(県)R3：事例1

(県)R3：3(2)

【物質・エネルギー（粒子）】 (県平均正答率:57.1%) (学校正答率: %)

▼：閉じ込めた空気と水を圧したときの現象を、それぞれの性質と関係付けて考えること〔4(2)〕

設問4(2)の正答率については、68.2%であり、十分とはいえない。指導に当たっては、空気と水の性質を踏まえ、それらを利用したおもちゃの仕組みについて考えるなど、実生活と結び付けた活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4 (2)	空気と水の性質をもとにした結果の見通し【構想】	68.2%	%

(県)R1：2(1)(2)

▼：溶けた物の存在について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想すること〔2(2)〕

設問2(2)については、p.30参照。

指導に当たっては、次のような点を充実する必要がある。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2 (2)	予想が確かめられた場合に得られる結果の見通し【構想】	48.7%	%

(県)R3：5(2) H23：2(3)

- ・自分の予想だけでなく、考えが異なる他者の予想に対しても検討し、結果の見通しをもつこと
- ・何を明らかにするのか、目的を明確にした上で、結果を見通して実験を構想すること

【生命・地球(生命)】

(県平均正答率:68.3%) (学校正答率: %)

○：昆虫の育ち方には一定の順序があることを理解すること〔1(1)〕

設問1(1)の正答率については、89.0%であり、概ね良好である。今後も、昆虫を卵から成虫まで飼育し、観察することを通して、昆虫の育ち方について考察する活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1	(1) 昆虫の育ち方	89.0%	%

(県)R2：1(2)③ H25：1(2)

○：メダカの発生のために雄の出すものが精子ということを理解すること〔5(1)①〕

設問5(1)①の正答率については、86.9%であり、概ね良好である。今後も、メダカを飼育し観察することや映像資料を視聴することを通して、魚の雌雄について、体の形状や生殖の働きが異なることを考察する活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5	(1)① メダカの誕生	86.9%	%

【生命・地球(地球)】

(県平均正答率:63.4%) (学校正答率: %)

◎：川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあることを理解すること〔6(2)〕

設問6(2)の正答率については、96.1%であり、良好である。今後も、川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形と、流れる水の働きを関係付けて考える活動を充実させることが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6	(2) 川原の石の特徴と場所の関係	96.1%	%

(県)H29：7(1)

▽：方位を正しく捉え、観測すること〔7(1)〕

設問7(1)の正答率については、66.2%であり、十分とはいえない。要因としては、方位磁針を用いて、方位を意識しながら雲を観察する活動が不十分であることが考えられる。指導に当たっては、太陽や影、雲を観察する際に、方位磁針を用いて方位を意識させることで、空間を認識することができるように、繰り返し指導することが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
7	(1) 雲の動きの観察時の方位	66.2%	%

指導改善のポイント

□実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する学習活動を充実すること

(→ 事例1)

□予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、実験を構想する学習活動を充実すること

(→ 事例2)

ア 事例1
実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
③ (1)	物質・エネルギー (エネルギー)	実験結果を基に、学習課題に正対するまとめを 考えることができる。	思考・判断・表現

③ 花子さんたちは、輪ゴムを使って動く車を作り、ゴムがものを動かすはたらきについて調べています。あとの問いに答えましょう。



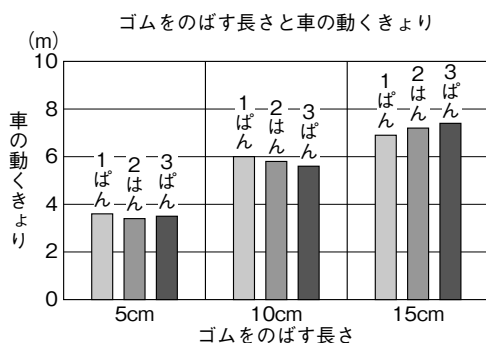
花子さんたちは、次のような学習課題を立てました。

【学習課題】

ゴムののばす長さを変えると、ものを動かすはたらきはどのように変わるのだろうか。

花子さんたちは、各はんでゴムののばす長さを変えて、車を動かす実験をしたところ、右のような【結果】になりました。

【結果】



(1) 【結果】をもとにすると、【学習課題】に対するまとめは、どのようになるか、書きましょう。

正答例	誤答例	
ゴムののばす長さを長くするほど、ものを動かすはたらきは大きくなる。	<ul style="list-style-type: none"> ゴムののばす長さを長くすると、車の動くきょりは大きくなる。 ゴムののばす長さを変えると、ものを動かすはたらきは変わる。 	
正答率 12.2%	誤答率 83.5%	無解答率 4.3%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「実験結果を基に、学習課題に正対するまとめを考えることができる」であり、正答率は12.2%と不十分である。誤答として、実験の結果を記載するにとどまり、【学習課題】に対するまとめになっていない記述が多く見られた。

要因としては、実験を行う際、何を調べるために行う実験なのか、目的を十分に理解させていないこと、考察やまとめの場面において再度、学習課題に立ち返り、何を明らかにして考察したり、まとめたりすればよいかを確認させていないことが考えられる。

指導に当たっては、目的を明確に理解させた上で、複数の具体物を扱った実験を行い、結果の整理後に、何を明らかにしようとしていた実験だったのか、学習課題に立ち返って、児童に目的を再確認させ、考察を行うことが必要である。

③ 改善事例 第5学年「物の溶け方」

1 指導のねらい

溶けた物の行方について、実験を行い、得られた結果を基に考察し、表現することができる。

2 具体例

単元の導入時

※単元の導入において複数の物を溶かす体験を設定し、課題につなげる。



水に溶ける物にはどんなものがあるのかな。
では、実際に溶かしてみよう。

食塩
です。

コーヒー
シュガー
です。

デンプン
です。



本時

※課題設定においては、「実験結果＝まとめ」にならないように複数の物を使った実験が行えるように工夫する。



食塩やコーヒーシュガーは、
水に溶けて見えなくなったけれど、
どうなったのかな。

コーヒーシュガーは溶けて粒は見えなくなったけれど、
水が茶色になったから、まだ水の中にあると思います。



粒が見えなくなったんだから、水に色が残っていてもコー
ヒーシュガーは溶けてなくなってしまったんじゃないかな。



では、今日は、食塩やコーヒーシュガーなどのように、水に溶けて見えなくなったものは、
どうなったのか調べてみることにしますか。

学習課題

<水にとけて見えなくなった物は、どうなったのかな。>



溶けて粒は見えなくても、水の中にあると思う
人と、消えてなくなった
と思う人がいますね。そ
れをどうやって調べたら
いいかな。



重さを調べたらどうかな。

どういふこと。



水に溶けて粒が見えなくなっても、水の中になれば、
溶ける前と溶けた後では重さが変わらないのではないかな。

※重さの視点が出なければ、教師から与える。

なるほどね。もし溶けてなくなっていけば、
重さは軽くなるはずだ。



水に溶けて見えなくなった物がどうなったか
を明らかにするために、溶ける前と後の重さ
を調べるといふことですか。

【ポイント1】課題や実験の目的を明確にする。

※より主体的な学習となるように、児童が自ら調べる
物を選択する場面などを設定する。

【結果】

とかした物	とける前	とかした後
食塩	153g	153g
ミョウバン	148g	148g
コーヒーシュガー	150g	150g



1班
私は食塩の結果が知りたい。

僕は新しくミョウバンを
調べてみたいな。

私はコーヒーシュガーも気になる。
全部調べてみようよ。



皆さんの実験結果を教えてください。

私は、ミョウバンを調べました。溶ける前と溶け
た後も重さは148gで変わりませんでした。



食塩もコーヒーシュガーも溶ける前と後で、重さは変わりませんでした。



では、まとめを書きましょう。

まとめは、「食塩もミョウバンもコーヒーシュガーも、
水に溶ける前と後では重さは変わらない」です。



今日の授業では、何のために
重さを調べたのかな。課
題は何だったかな。

【ポイント2】まとめの場面では、学習課題に立ち返って
目的を再確認させる。

今日は、「水に溶けて見えなくなった物はどうなったか」を調べるために実験を行ったんだよ。
それだと、さっきの【結果】と同じになってしまうよ。



そうだった。それなら、「水に溶ける前と後で重さは変わらないから、
水に溶けて見えなくなった物は、なくならずに水の中にある。」に直します。



イ 事例2

予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、実験を構想する学習活動を充実すること

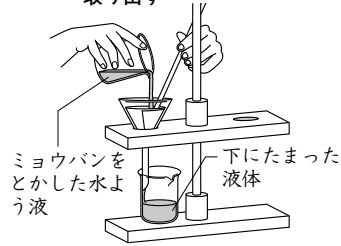
① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
2 (2)	物質・エネルギー (粒子)	溶けた物の存在について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想し、表現することができる。	思考・判断・表現

2 太郎さんたちは、水の温度を60℃にして、ミョウバンをとけるだけとかした水よう液をつくった後、その水よう液を**ひと晩**置いておきました。次の日、水よう液の温度は20℃まで下がっていて、水よう液には、とけていたミョウバンが出てきていました。次の問いに答えましょう。

(1) 出てきていたミョウバンを取り出すために、右のようなそう置で**実験1**をしました。**実験1**の方法を何というか書きましょう。

実験1 出てきていたミョウバンを取り出す



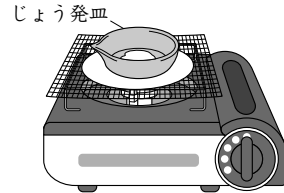
実験1で下にたまった液体について、太郎さんは次のように予想しました。

実験1で、下にたまった液体は水だと思うよ。



太郎さんの予想を確かめるために、**実験1**で下にたまった液体をじょう発皿に入れて**実験2**をしました。

実験2 下にたまった液体を加熱する



(2) 太郎さんの予想が正しければ、**実験2**の結果はどのようになると考えられますか。()にあてはまる言葉を書きましょう。

じょう発皿には、()。

正答例	誤答例	
(じょう発皿には、) 何ものこらない (。)	<ul style="list-style-type: none"> ・ あたたかい水がのこる ・ ミョウバンがのこる 	
正答率 48.7%	誤答率 47.9%	無解答率 3.3%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「溶けた物の存在について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想し、表現することができる」であり、正答率は48.7%と不十分である。誤答は、「水だと思う」という太郎さんの予想に沿った結果を見通せていないものが多い。

要因としては、予想が正しいかどうかではなく、「それが正しければ、どんな結果が得られるか」という結果の見通しをもたせる指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、何のために実験を行うのか、その目的を明確にすることや、自分の考えと異なる他者の予想を把握し、その予想が確かめられた場合に得られる結果の見通しをもたせる活動を取り入れることが大切である。また、自分と異なる他者の予想を基に、結果を見通すことも必要となる。

③ 改善事例 第4学年「物のあたたまり方」

1 指導のねらい

水のあたたまり方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想し、表現することができる。

2 具体例

◇水のあたたまり方について話し合い、実験を構想する場面

予想



私は、水も金属と同じように、熱したところから順番にあたたまっていくと思います。

僕は、金属と違って、あたたまった水と冷たい水が入れかわりながら、全体的にあたたまっていくと思います。



AさんもBさんも、前に学習したことをもとに予想できているね。

実験の構想

【ポイント1】 目的を明確にして結果を見通して実験を構想する。



みなさんの予想を確かめるためには、どのようにしたらよいかな？



私の予想を確かめる場合は温度計では難しいかな。

僕の場合は、空気と同じように温度計で調べられるんじゃないかな。



水のあたたまり方を調べるために、いろいろな方法がありますよ。あたたまったところから色が変化する「示温インク」や、空気の実験の時に使った線香の煙みたいに、水の中にインクやチョークの粉、おがくずなどを入れて、その動き方を見る方法などです。

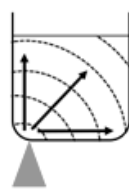
【ポイント2】 予想が確かめられた場合に得られる結果についての見通しをもたせる。

※自分の考えと異なる他者の予想も把握させ、結果の見通しをもたせる。

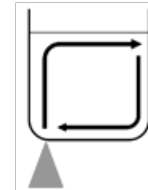


実験の方法は、自分たちで選択をしてください。自分の予想や友達の予想が正しい場合、どんな結果が見られるかについても話し合ってみましょう。

私は、示温インクで確かめようと思います。私の予想が正しいければ金属と同じように扇形みたいに色が変って、Bさんの予想が正しいければ、ビーカーの周りを回りながら色が変わるよね。



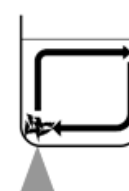
私の予想



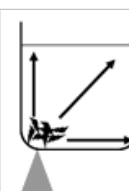
Bさんの予想



僕は、おがくずで調べようと思います。あたためたところからおがくずがビーカーの中をぐるぐる回ると思います。Aさんの場合は、あたためられたところからいろんな方向におがくずが動いていくと思います。



僕の予想



Aさんの予想



小学校第6学年 英語

県平均正答率	学校正答率
87.9%	%

(1) 全体的な傾向

小学校第6学年の英語は、令和5年度が初実施である。平均正答率は87.9%で、到達状況は概ね良好である。領域別では、「読むこと」の領域は良好であり、「書くこと」の領域は概ね良好である。「聞くこと」の領域では、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取って、理解することについては良好であるが、まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を聞き取ったり、概要を捉えたりすることについては十分とはいえない。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【聞くこと】 (県平均正答率：87.0%) (学校正答率： %)

◎：身近で簡単な事柄について、語句や基本的表現を聞き取ること〔1〕

設問1の正答率については、99.5%であり、良好である。今後も、簡単な語句や基本的な表現を聞き取る活動を、意図的・継続的に行うことが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1	(1) 自己紹介の聞き取り (好きな食べ物)	99.3%	%
	(2) 自己紹介の聞き取り (好きな果物)	99.9%	%
	(3) 自己紹介の聞き取り (好きなスポーツ)	99.3%	%

▽：日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えること〔6〕

設問6については、p.34参照。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6	短い話を聞いて、その概要を捉えること	69.2%	%

指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

- ・音声だけで情報を捉えるのではなく、イラストや写真などの視覚的な情報も参考にしながら、話されることの概要を捉えるよう指導すること
- ・職業に関する語彙が、受容語彙（聞いて意味が理解できる語彙）となるよう、複数単元を通して繰り返し指導すること

▼：将来の夢に関するまとまりのある英語を聞いて、必要な情報を聞き取ること〔5(2)〕

設問5(2)の正答率については、36.4%で、不十分である。要因として、相手の

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5	(2) 将来の夢について理由の聞き取り	36.4%	%

話の中のどのような内容が理由に当たるのか、児童に思考させながら言語活動に取り組みさせる指導が不十分であることが考えられる。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

- ・児童が、自分が必要とする情報と関連する英語表現に注意を払って聞き取れるよう、聞く目的や聞きたい情報を明確にして指導すること
- ・簡単な表現でも、理由となる内容を伝えることができるということを児童と共有した上で、聞く活動において内容を重視した聞き方を指導すること

【読むこと】

(県平均正答率：95.5%) (学校正答率： %)

◎：簡単な語句や基本的な表現の意味を理解すること〔8〕

設問 8 の正答率については、95.5%であり、良好である。今後も、音声で十分に慣れ親しませた上で、簡単な語句や基本的な表現を識別し、その中から自分が必要とする情報を得る活動を通して、図やイラストなどを手がかりに推測しながら読ませる指導を、単元を通して行うことが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
8	(1) 単語を読んで意味を理解すること	94.0%	%
	(2) 単語を読んで意味を理解すること	97.0%	%

簡単な語句や基本的な表現を識別し、その中から自分が必要とする情報を得る活動を通して、図やイラストなどを手がかりに推測しながら読ませる指導を、単元を通して行うことが必要である。

【書くこと】

(県平均正答率：87.1%) (学校正答率： %)

○：大文字を活字体で書くこと〔7(1)(2)〕

設問 7 (1)(2) の正答率については、88.9%であり、概ね良好である。今後も、書く活動に取り組みさせる際には、文字の高さや形に気を付けながら、四線上の正しい位置に書くことができるよう、継続して指導していくことが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
7	(1) アルファベットの B を書くこと (B)	96.5%	%
	(2) アルファベットの L を書くこと (L)	81.3%	%

には、文字の高さや形に気を付けながら、四線上の正しい位置に書くことができるよう、継続して指導していくことが必要である。

▽：小文字を活字体で書くこと〔7(3)〕

設問 7 (3) については、p.36 参照。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
7	(3) アルファベットの q を書くこと (q)	65.7%	%

指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

- ・活字体の大文字、小文字を書く指導については、音声で文字の名称を聞いて、どの文字か選択するなどの「聞くこと」の活動や、文字を読んで識別したり発音したりするなどの「読むこと」の活動を、十分に行った後に行うこと
- ・文字を書かせる際には、文字の高さや形について意識させながら、四線上に正しく書くことができるように指導すること

指導改善のポイント

□まとまりのある英語を聞いて、目的や場面、状況に応じて、概要を捉える力を高める学習活動を充実すること (→ 事例1)

□文字を書く指導の際には、文字の読み方と十分に結び付け、文字の高さや形を意識させ、四線上に正しく書く学習活動を充実すること (→ 事例2)

(3) 改善に向けた指導事例

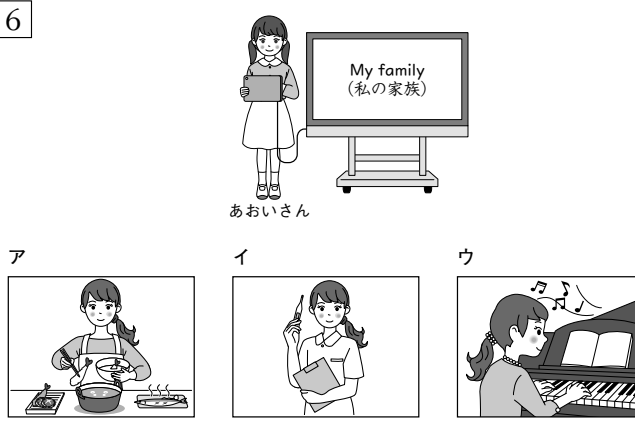
ア 事例1

まとまりのある英語を聞いて、目的や場面、状況に応じて、概要を捉える力を高める学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
6	聞くこと	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができる。	思考・判断・表現

6



あおいさん

ア イ ウ

(リスニング問題文)

次に、問題6に移ります。あおいさんの学級では、英語の授業で、自分の家族について紹介する学習をしています。あおいさんは、あとのア～ウのスライドを見せながら、お母さんを紹介します。あおいさんはア～ウのスライドをどのような順番で見せるとよいでしょうか。話している順番になるように、1つずつスライドを選びましょう。それでは、始めます。

This is my mother. She is a nurse. She can play the piano well. She is good at singing, too. She can cook Japanese food well.
It's delicious. She is always kind to me.
I like my mother.
繰り返します。 (Repeat)

正答例	誤答例	
イ → ウ → ア	ウ → ア → イ	
正答率 69.2%	誤答率 30.6%	無解答率 0.2%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができる」であり、正答率は69.2%で十分とはいえない。誤答としては、職業を表すイラスト（イ）を最後に選んでいる解答が多く見られた。この要因として、「聞くこと」の指導が十分ではなかったため、職業に関する語彙が、聞いて意味を理解できる受容語彙のレベルにまで至っておらず、自分が表現するために必要な語彙のみの理解に留まっていることが予想される。また、音声だけでなく、イラスト等も参考にしながら、児童自身で必要な情報を焦点化させるなど、目的を明確にもって聞くための指導が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、まとまりのある英文を聞いて判断する学習活動において、教師が示したポイントに焦点化して、目的をもたせて聞かせるという段階から、児童自身が、何について聞いたらよいかを思考・判断しながら聞く段階へと、段階的に聞く力を育成していくことが必要である。

また、概要を捉える力の育成に向けて、話の特定の部分に捉われることなく、全体像をつかみ取るような聞き取りをする学習活動も工夫する必要がある。例えば、場面設定を工夫しながら、聞いた後に話の展開に沿って、内容を示す絵を並べ替える活動等、児童がイラスト等を参考に話を聞いて、展開が理解できるような学習活動を充実させることが必要である。

③ 改善事例 第5学年

「Who is your hero? ～ ALT の先生に、自分にとってのヒーローを詳しく紹介しよう ～」

1 指導のねらい

まとまりのある英語を聞いて、目的や場面、状況に応じて、概要を捉えることができる。
 ※「聞くこと」だけではなく「話すこと（発表）」も記録に残す指導領域として設定する。

2 具体例

【導入】目的や場面、状況を設定し、やり取りを聞かせる

HRT: My hero is ○○○○. Do you know ○○○○?

ALT: I want to know more about Japan. Who is your hero in Japan?

HRT: I don't know. Please tell me!

指導のポイント

具体的な目的や場面、状況等を設定し、聞く内容についての見通しをもたせる。

【展開①】より分かりやすく伝えるためのスライド（視覚資料）をどの順番で見せるとよいかを端末を活用して考えさせる

スライドを使って詳しく伝えたいと思っています。どの順番でスライドを見せたらALTの先生に、より分かりやすく伝わるかな。

スライド A スライド B スライド C

【展開①】

児童が目的を明確にもって聞くことができるよう、先にスライドを見せるなど、展開を工夫する。

ピアノと料理と野球の絵があるね。どんな順番で話に出てくるのかな？

得意なことを伝えるときは、good at を使ったな。

既習表現を意図的に用いる。
 例・ He is a (職業) .
 ・ He can ～ .

This is my hero, ○○○○. He is a professional baseball player. I like baseball very much. He is good at hitting home runs. He can play the piano. He can cook well, too. So, my hero is ○○○○.

他の教員が自分にとってのヒーローを紹介する動画などを活用して、同様の聞く活動を、単元で複数回設定する。その動画をクラウドで共有すれば、必要に応じて、児童がいつでも聞き返すことができる。

先生のヒーローはプロ野球選手なのね。職業を最初に言っていたから、スライドCを初めに見せるといいね。

野球選手なのに、ピアノも料理もできるのか。どちらを先に紹介していたっけ？

【展開②】

【展開②】友達の話聞きながら、相手のスライドを並べ替える（ペア活動）

私のスライドの順番を当ててね。

This is my hero, △△△△. She is an actor. She can sing well. She is good at dancing. She is friendly.

スライド A スライド B スライド C

話していることとスライドを結び付けることができたよ。

端末上に準備した数枚のスライドを、相手の端末に送る。聞く方の児童は、概要を捉えながら、スライドを順番に並べ替える。

互いのよかった点や改善点を共有し、次時以降の話すことの学習につなげる。

【展開③】スライドを参考にしながらALTのヒーロー紹介を聞き取る

This is my hero, □□□□. He is a soccer player. He is from Brazil. He can speak Portuguese, English, and Spanish. He is good at shooting. He is strong.

ワークシート

<聞きながら必要な情報をメモしよう>

【展開③】

児童自身が必要な情報を判断し、メモできるようなワークシートを準備する。
 ※ワークシートの記載内容を元に評価を行う。

【まとめ】概要を捉える力の達成状況を把握する

・ワークシートや振り返りカードをもとに、本時の学びを把握する。

【まとめ】

達成状況を把握し、次時以降の指導に生かす。

イ 事例2

文字を書く指導の際には、文字の読み方と十分に結び付け、文字の高さや形を意識させ、四線上に正しく書く学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

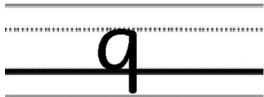
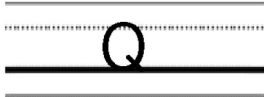

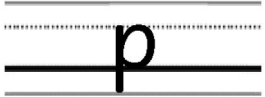
設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
7	書くこと	大文字、小文字を活字体で書くことができる。	知識・技能

7

(リスニング問題文)

アルファベットの文字を読みます。読まれたアルファベットの文字を、(1)～(3)の指示に合わせて、解答用紙の四線の上にていねいに書きましょう。それでは、始めます。

(3) 小文字で書きましょう。 q
繰り返します。 (Repeat)

正答例	誤答例		
(3) 	 大文字を小さく書いている。	 四線上の正しい位置に書いていない。	 別の文字を書いている。
正答率 65.7%	誤答率 32.6%	無解答率 1.7%	

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「大文字、小文字を活字体で書くことができる」である。

ここでは、上記のような誤答が多く見られた。この要因として、文字と音を結び付ける指導や、文字の高さや形を意識して書かせる指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、文字の名称を聞いて活字体を選ぶ「聞くこと」の活動を十分に行った上で、名称を聞いて活字体を書く活動を行うことが重要である。また、Aaから順に指導すべきと考えるのではなく、どの文字から書く指導をした方が児童にとって効果的なのかを考えることも大切である。例えば、大文字、小文字を書かせる際には「a, c, e」「f, l」などを取り上げて、高さの違いを、「p, q」「b, d」などを取り上げて、紛らわしい形を意識させたりするなど、指導を工夫する必要がある。「A, H, I」などの左右対称の文字、「Cc, Ss, Xx」などの大文字と小文字の形が同じ文字等を取り上げて、文字の形の特徴を捉えさせるなど指導を工夫することも必要である。

なお、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書かせる際には、「相手に伝わるように」、「相手を読みやすいように」など、相手意識や目的意識をもたせることが重要である。

③ 改善事例 第5学年（学年段階や学習状況に応じて）

1 指導のねらい

大文字、小文字を活字体で書くことができる。

2 具体例



アルファベットを書く活動を行う際、児童が主体的に学べるようにするためには、どのように指導すればよいでしょうか。児童の個人差もあるので困っています。



確かに、児童が主体的に学べるようにするためには、単調な繰り返しの学習ではなく、**ゲーム的要素を取り入れる**、または、何らかの**書く目的をもたせる**、などの工夫が必要です。授業の導入や朝学習などの時間も有効に使うといいですよ。

【ゲーム的要素を取り入れる指導の工夫】

① アルファベット集めゲーム

教師が提示した条件に合うアルファベットを、個人またはペアやグループで協力して集める。

〔条件例1〕文字の高さを指定



基線より下まである小文字を探しましょう。



〔条件例2〕文字の音を指定

※ ALT が言ったアルファベットと、似た発音の他の文字を書く



t



② What's today's Alphabet? ゲーム

ALT がアルファベットを1文字選んで発音し、それを児童が4線の上に書く。単元を通して毎時間1文字ずつ書き溜めて、最終的に完成した7～8文字を並べてできる単語は何かを当てる。

例：subjects, sandwich 等

慣れてきたら、アルファベットをランダムに言うなどのアレンジも可能。



t

r

i

...



triangle



【書く目的をもたせる指導の工夫】

相手に伝えるなどの目的をもって、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動

目的の設定：ALTの家族がいつ日本に来たらよいか決められるように、日本のおすすめの季節と年中行事を紹介しよう

What season do you like?



ワークシート

私のおすすめの季節は春だな。ひな祭りのことと一緒に英語でカードに書いて、ALTの先生に伝えたいな。



Why do you like spring?



ワークシート



ALTに渡すカード

指導のポイント

「アルファベット順に指導すべき」と考えるのではなく、**簡単な文字から扱う**など児童が学びやすいよう配慮したり、ローマ字で扱わない文字や、大文字と形が異なる小文字など児童が**つまずきやすい文字を重点的に扱ったり**と、児童の実態に応じて指導を工夫する。

アルファベットの名称の読み方と文字を結び付ける指導により、文字の読み方が発音されるのを聞いて、その文字が書けるようにする。

「聞くこと」を通して、音声に十分に慣れ親しみ、「読むこと」を通して、文字を識別したり発音したりしてから、その後文字を書く（語句を書き写す）活動に取り組むという順序性を踏まえ、指導する。

児童が思考して、伝える内容を判断し、主体的に表現することができるようにする。

音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を、**単元を通して書き写す活動を設定し**、書き溜めたワークシートの内容を、単元後半の授業でカードに清書させるようにする。

中学校 第3学年
「社会」「理科」

中学校第3学年 社会

県平均正答率	学校正答率
52.7%	%

(1) 全体的な傾向

令和5年度の平均正答率は52.7%で、4年度より7.9ポイント下回り、到達状況は不十分である。地理的分野の知識・技能については基準に到達しているが、地理的分野、歴史的分野ともに、複数の資料から読み取った情報を基に、社会的事象の意味や意義などを考察し、適切に表現することについては、依然として課題が見られる。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【地理的分野】 (県平均正答率:62.4%) (学校正答率: %)

◎：世界を代表する大陸や海洋の基礎的な知識について理解すること〔1(1)①〕

設問1(1)①の正答率については、90.4%であり、良好である。今後も、地図帳や地球儀、白地図の

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1	(1)①A 三大洋(太平洋)	90.3%	%
	(1)①B 六大陸(ユーラシア大陸)	90.4%	%

意図的・計画的な活用を通して、大陸や海洋の位置などの基本的な知識の定着を図ることが大切である。

(県)R3：1(1)A R2：1(1)B

○：地形図を読み取り、その地域の特徴を判断すること〔4(3)②〕

設問4(3)②の正答率については、83.7%であり、概ね良好である。4年度の関連する設問の正答率

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4(3)②	地形図の活用(地域の特徴)	83.7%	%

(県)R4：事例1

(県)R4：4(5) R3：4(4)

と比べると、56.2ポイント上回っており、改善がみられる。今後も、地形図を活用し、等高線、方位、距離、地図記号などを的確に読み取って地域的特色を捉える学習活動、端末を活用するなどして、地形の特徴を立体的に捉える学習活動を工夫することが大切である。

▼：世界の気候帯の特色について理解すること〔1(1)③〕

設問1(1)③の正答率については、42.8%であり、不十分である。要因として、

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1(1)③	世界の気候の特色(南半球)	42.8%	%

(県)H29：1(4) H25：1(1)③

中心からの距離と方位が正しい地図や面積の正しい地図など、様々な地図から都市の位置を読み取る学習活動や、雨温図から読み取った情報と、地図から読み取った都市の位置を関連付けて特色を捉える学習活動が、不十分であると考えられる。指導に当たっては、雨温図の読み取り方を理解した上で、気温や降水量の特徴と都市の位置を関連付け、適切に表現する学習活動を充実させることが必要である。

▼：地理的事象について、複数の資料を基に考察し、適切に表現すること〔1(2)④、4(4)、4(5)②〕

設問1(2)④、4(4)の正答率については、35.0%であり、不十分である。誤答としては、複数の資料から考察したことを、題意を踏まえて適切に表現できていない解答が多く見られた。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1(2)④	バイオ燃料で走る自動車が普及した理由	36.4%	%
4(4)	関東地方の昼夜間人口の比較	33.5%	%
4(5)②	冷害と地形の関係	15.8%	%

(県)R4：4(4)② R3：1(5)② Y

設問4(5)②については、p.42参照。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

地理的事象の背景や要因について、資料から読み取った情報と、既習の知識を関連付けて多面的・多角的に考察し、適切に表現する学習活動を工夫すること

【歴史的分野】

(県平均正答率:44.7%)(学校正答率: %)

◇：古代の歴史に関わる事象の変遷について理解すること〔2(5)〕

設問2(5)の正答率については、72.9%であり、基準に到達している。今後も、我が国の歴史の大きな流れを理解させる学習活動を工夫することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2(5)	時代の流れ(並び替え)	72.9%	%

(県)H30:3(5)

◇：産業革命における問題点について、資料を基に考察し、適切に表現すること〔5(3)〕

設問5(3)の正答率については、74.6%であり、基準に到達している。今後も、目的を明確にして資料から必要な情報を読み取り、それをもとに考察したり、表現したりする学習活動を充実させることが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5(3)	産業革命の問題点	74.6%	%

▼：基礎的・基本的な歴史に関わる事象について理解すること〔2(2)、3(3)〕

設問2(2)、設問3(3)の正答率については、30.6%であり、不十分である。設問3(3)については、p.44参照。指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2(2)	歴史上の事象(院政)	34.5%	%
3(3)①	歴史上の事象(応仁の乱)	32.2%	%
3(3)②	歴史上の事象(分国法)	25.2%	%

(県)H28:3(3)

各時代の特色や、時代の転換に係る基礎的・基本的な歴史的な事象について、歴史的な見方・考え方を働かせて考察し、学んだことを自分の言葉で適切に説明しきる学習活動を充実すること

▼：歴史に関わる事象について、複数の資料を基に考察し、適切に表現すること〔3(5)、5(4)②〕

設問3(5)、設問5(4)②の正答率については、23.7%と不十分であり、依然として課題がみられる。指導に当たっては、複数の資料から読み取った情報を、当時の歴史的背景や影響などと関連付けて考察し、適切に表現することで、歴史的な事象の意義を理解する学習活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3(5)	参勤交代の影響	27.1%	%
5(4)②	異国船打払令を緩めた理由	20.3%	%

(県)R4:事例2 R3:事例2

(県)R4:5(6) H30:3(6)

指導改善のポイント

□社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する学習活動を充実すること

(→ 事例1)

□基礎的な知識を習得するために、既習事項と比較したり共通点に着目したりしながら、意義などを考察する学習活動を充実すること

(→ 事例2)

ア 事例1
 社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
4 (5)②	地理的分野	1993年の米の収穫量の違いについて、その原因を複数の資料を基に考察し、適切に表現することができる。	思考・判断・表現

4 (5)
 ② 資料2は、東北地方6県の1985年、1993年、2021年における米の作況指数（10ha当たりの平年収穫量を100として、その年の収穫量を表す指数）を表している。1993年は、ある自然災害が起こったが、それによって作況指数が大幅に減少している県が多い中、秋田県や山形県の被害が比較的少なかったのはなぜか。その理由を、資料3と資料4をもとに、その自然災害に触れて書きなさい。

[資料2] 米の作況指数の比較

(農林水産省資料より作成)

[資料4] 東北地方の地形

[資料3] 東北地方6県の7月の平均気温(℃)

	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
1985年	21.3	22.4	23.3	22.3	23.8	24.7
1993年	18.3	18.7	18.5	21.1	20.5	20.0
2021年	23.9	24.5	24.1	26.0	25.3	25.2

(気象庁資料より作成)

正答例	誤答例	
1993年に、東北地方では、やませによる冷害が起こったが、奥羽山脈によってやませがさえぎられたため、日本海側の秋田県や山形県が受けた影響は小さかったから。	<ul style="list-style-type: none"> ・やませが山脈にぶつかり、日本海側の秋田県と山形県はあまり影響を受けなかったから。(冷害について触れていない) ・太平洋側の青森県、岩手県は冷害の被害が大きかったが、秋田県や岩手県は2つの山地、山脈にさえぎられ被害が少なかったから。(やませを表す表現がない) 	
正答率(準正答率) 15.8%(1.3%)	誤答率 61.4%	無解答率 22.8%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「1993年の米の収穫量の違いについて、その原因を複数の資料を基に考察し、適切に表現することができる」であり、正答率は15.8%と不十分である。誤答については、冷害について触れていない解答や、やませを表す表現がない解答が多いことから、「やませ」という用語を覚えていても、その特徴や影響までは理解できておらず、活用できる知識として身に付いていないことが考えられる。この要因として、社会的事象の特徴やその影響を、既習と関連付けて考察し、自分の言葉で表現する学習活動が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、複数の資料を関連付けて考察させる際に、既習の内容を想起させるように問い返しを行ったり、資料から読み取った情報が活用できているか確認させたりすることが重要である。また、例えば、やませについて、「太平洋側だけではなく日本海側にはどんな影響を与えるのか」など、地図や他の資料を活用しながら考察したことを説明するなど、地理的事象について多面的・多角的に考察し、資料から必要な情報を取り出しながら、自分の言葉で説明する学習活動を充実させることが大切である。

③ 改善事例 第2学年「東北地方」

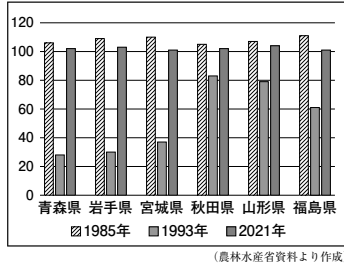
1 指導のねらい

地理的事象が起こる原因を、多面的に考察したことをもとに、適切に表現する力を育成する。

2 具体例

※東北地方の学習において、東北地方の冷涼な気候と農業との関係を捉える際に取り組む

【資料1】米の作況指数の比較



資料1は、東北地方6県の1985年、1993年、2021年における米の作況指数を表しています。この資料からどんなことが読み取れますか。

1993年の作況指数が、他の年に比べて低くなっています。



たしかに、他の年に比べて低くなっているけれど、山形県や秋田県はそれほどでもないよ。なぜ、差があるのかな。



同じ東北地方なのに、なぜ、県によって違いがあるのでしょうか。資料2も参考に、その理由について、考えてみましょう。

【資料2】東北地方各県の7月の気温

	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
1985年	21.3	22.4	23.3	22.3	23.8	24.7
1993年	18.3	18.7	18.5	21.1	20.5	20.0
2021年	23.9	24.5	24.1	26.0	25.3	25.2

(気象庁資料より作成)

資料1と資料2から、1993年は、7月の気温が低くて、特に太平洋側の県の気温が低くなっていることが分かるね。



「冷害」って言うんだよね。でも、どうして、日本海側の気温は太平洋側に比べて低くならないのかな。



以前、東北地方の自然環境について学習しましたね。その中に「冷害」につながりそうな内容はありましたか。



東北地方には夏になると、「やませ」という風が吹いて、気温が低くなることがあると学習しました。「やませ」が関係しているのかもしれないね。

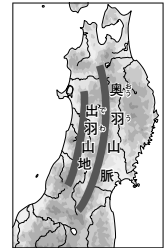
ポイント①：複数の資料を関連付けて考察させる際に、既習の内容を想起させるように問い返しなどをする。

じゃあどうして山形県や秋田県は被害が少ないのか、地図帳で東北地方の地形を確認しよう。

「やませ」はたしか、北東から吹く風だったよね。奥羽山脈や出羽山地などによって遮られたから、日本海側の秋田県や山形県は、被害が少なかったのかな。



中国・四国地方での学習でも、季節風が中国山地と四国山地に遮られて、太平洋側・日本海側・瀬戸内地方の気候がそれぞれ違うことを学んだよ。それと同じだね。



では、調べたことをもとに、「なぜ県によって違いがあるのか」、その理由を、原因を明確にして説明してみましょう。



1993年の作況指数が太平洋側と日本海側で違うのは、奥羽山脈によってやませが遮られるため、太平洋側の被害に比べて、日本海側に位置する秋田県や山形県の被害は小さかったのだと思います。



なるほど。皆さん、今の説明で原因や理由が十分伝わりましたか。



やませが原因なのは伝わったけれど、どんな被害が出るのかも、伝えた方がいいと思います。

そうだね。説明し直します。

1993年の作況指数が太平洋側と日本海側で違うのは、夏に冷害をもたらす北東の風であるやませが、奥羽山脈によってさえぎられたため、太平洋側の被害に比べて、日本海側に位置する秋田県や山形県の被害は小さかったのだと思います。



ポイント②：地理的事象が起こる原因を明確にさせ、資料をもとに自分の言葉で説明させる。

※本事例では、社会的事象の原因や影響について、「多面的」に考察する学習活動を取り上げたが、同様に、「多角的」な視点で立場を変えて考察する学習活動についても、授業の中で取り上げ、充実させていくことが大切である。

イ 事例2

基礎的な知識を習得するために、既習事項と比較したり共通点に着目したりしながら、意義などを考察する活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
3(3)①	歴史的分野	中世の基礎・基本となる歴史的事象について理解している。	知識・技能

3 年表や資料を見て、次の問いに答えなさい。

[年表]

年	おもなできごと	
1338	足利尊氏が征夷大將軍となる … A	
1429	琉球王国ができる … B	
1467	(X) がおこる … C	
1573	室町幕府が滅亡する	
1603	江戸幕府が開かれる	
1615	武家諸法度が制定される … D	

(3) Cについて、次の①、②の問いに答えなさい。

① (X) は、將軍家や管領家のあとつぎをめぐる対立から起こった戦いである。この戦いを何というか、書きなさい。

正答例	誤答例	
応仁の乱	壬申の乱、承久の乱、関ヶ原の戦い	
正答率	誤答率	無解答率
32.2%	42.6%	25.2%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「中世の基礎・基本となる歴史的事象について理解している」であり、正答率は、32.2%と不十分である。誤答としては、壬申の乱、承久の乱、関ヶ原の戦い等、既習の戦いの名称を書いているものが多かった。要因としては、戦いの名称を覚えるだけで、背景、原因、結果、影響など事象相互を関連付けて考察し、表現する学習活動が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、各時代の特色や時代の転換に係る基礎的・基本的な歴史的事象について、年代や名称などを覚えさせるだけでなく、その背景や要因、社会に与えた影響などについて、自分の言葉で説明させたり、考えの根拠として用いさせたりしながら、定着を図る学習活動を充実させることが大切である。

③ 改善事例 第1学年「応仁の乱と戦国大名」

1 指導のねらい

基礎的・基本的な歴史的事象を、歴史的な見方・考え方を働かせながら多面的・多角的に考察し、表現する力を育成する。

2 具体例

基礎的・基本的な歴史的事象を、知識としてしっかりと定着させるには、どうしたらいいでしょうか。特に、戦いや文化などについて、区別できていないようで、困っています。



若手先生



ベテラン先生

知識の定着には、用語として覚えさせるだけでなく、原因や結果、影響など、歴史的にどのような意義があるのかについてもしっかりと押さえることが大切です。

また、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなど、歴史的な見方・考え方を働かせることも大切です。

では、「応仁の乱」を例に考えてみましょう。どのような歴史的意義を生徒達に捉えてほしいですか。そのためにどのような学習課題を設定しますか。

応仁の乱は、室町幕府が衰えるとともに、戦国大名が領国を支配する戦国時代へと移り変わるきっかけとなった戦いであることを捉えてほしいです。そこで、学習課題は「どのような戦いであったのか」というのはどうでしょうか。



時代の推移の視点ですね。では、時系列にとらわれる必要はありませんので、生徒達が歴史的意義を捉えやすいように、展開を考えてみましょう。

まず、導入は、有名な戦国大名を紹介し、戦国時代が始まったことを確認し、学習課題を提示します。前半は、戦国時代の特徴を、資料から読み取り、戦国大名の領国支配の様子などを整理します。その後、学習課題に着目させ、このような戦国時代が始まるきっかけとは何だったのかについて調べさせたいと思います。



なるほど。先に戦国時代を学ぶことで、その原因に興味をもたせるのですね。他の視点から課題設定を工夫することもできますよ。例えば、**時期や年代**の視点では、学習課題とともに、本時の学びが歴史のどの時期に当たるのかを数直線などで示す方法があります。また、**既習事項との比較**の視点なら、例えば承久の乱などと比較することで、応仁の乱の背景や影響をより明確にすることができます。

【数直線の例】

13世紀	14世紀	15世紀	16世紀	17世紀
------	------	------	------	------

【既習事項との比較の例】

	承久の乱 (1221年)	応仁の乱 (15世紀)
原因	後鳥羽上皇が倒幕を目指す	将軍家や管領家の跡継ぎ争い
結果	鎌倉幕府の勝利 後鳥羽上皇流罪	11年続き、幕府の力が低下
影響	幕府による西日本支配が進む	戦国時代へと移り変わる

なるほど。確かに、生徒は用語を覚えていても、年代を区別できていないことがありますね。数直線で年代を示したり、混同しやすい用語を比較したりすることで、違いを明確にできるので、知識の定着につながりますね。



最後に、学んだことを自分の言葉で表現させることも、知識の定着を図るためには大切です。どんなことを意識して、まとめを行いますか。

まとめでは、単に「応仁の乱が起こったことで戦国時代に移り変わった」といった内容にせず、戦国時代のきっかけとなった応仁の乱とはどんな戦いだったのかを確認した上で、どのような時代に变化していったのかということ意識してまとめを行いたいと思います。



歴史的事象を、その歴史的意義や既習事項などと「つなぐ」ことが大切です。教師自身が、歴史的事象について、その意義を再確認してみましょう。

中学校第3学年 理科

県平均正答率	学校正答率
51.4%	%

(1) 全体的な傾向

令和5年度の平均正答率は51.4%で、3年度より4.3ポイント下回り、到達状況は不十分である。領域別では、「生命」を柱とする領域は、平均正答率は68.2%と十分とはいえないものの、3年度より8.0ポイント上回り、改善が図られている。「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率は42.7%、また、「地球」を柱とする領域の平均正答率は37.0%と、ともに不十分である。

(2) 領域・分野ごとの分析・考察

【第1分野「エネルギー」を柱とする領域】 (県平均正答率：42.7%) (学校正答率： %)

▼：重力について理解すること〔2(1)〕

設問2(1)については、p.48参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
2 (1)	重力が働く現象	49.9%	%

(P) 2(1)

- ・日常生活における現象を、既習と関連付けて説明する学習活動を充実させること
- ・生徒の不十分な説明や誤った説明について、教師が解釈して補完せず、問い返しや助言を通して生徒自身が適切に説明し直すことができるように、再構築する場を保障すること

▼：輪にした導線に流れる電流がつくる磁界の向きを理解すること〔8(1)〕

設問8(1)については、3年度の関連する設問の正答率と比べると3.7ポイント上回ったが、正答率については38.9%と不十分

であり、依然として課題が見られる。要因として、実験結果を分析して解釈し、見いだした規則性を基に思考させる指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、実験結果を分析して解釈し、1本の導線に流れる電流がつくる磁界の向きについて理解するとともに、見いだした規則性を基に思考する学習活動を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
8 (1)	導線に流れる電流がつくる磁界の向き	38.9%	%

(県) R3：事例1

(県) R3：7(2)A R3：事例1

【第1分野「粒子」を柱とする領域】 (県平均正答率：57.7%) (学校正答率： %)

○：気体の性質を基に、実験の方法と結果を考えること〔3(3)〕

設問3(3)の正答率については、84.6%で、概ね良好である。

今後も、予想や仮説を基に、結果の見通しをもたせ、解決する方法を立案できるように指導することが大切である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
3 (3)	気体の性質を基にした実験方法の結果の見通し【構想】	84.6%	%

(P) 3(1)

▼：塩酸と炭酸水素ナトリウムの化学変化を、モデルを使って表すこと〔6(3)モデル〕

設問6(3)モデルについては、p.50参照。

指導に当たっては、次のような点を充実させることが必要である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
6 (3)モデル	炭酸水素ナトリウムと塩酸の化学変化のモデル図	40.4%	%

(県) H28：事例1

(県) R3：4(1) R1：3(3)

- ・モデルを用いて、原子、分子、物質のつくりの基本を押さえるとともに、物質を粒子のイメージで捉えさせること
- ・化学変化を物質や実験結果等と関連付けながら、化学反応式で表す活動を充実させること

【第2分野「生命」を柱とする領域】

(県平均正答率：68.2%) (学校正答率： %)

○：胎生について理解すること〔1(1)〕

設問1(1)の正答率については、82.7%で、概ね良好である。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
1	(1) 胎生の名称	82.7%	%

今後も、動物の外部形態等の

観察を行い、その観察記録や資料などを活用しながら、いろいろな共通点や相違点があることを見いだし、動物の体の基本的なつくりを理解させる指導が大切である。

▽：核が染色液によって染色されることを理解すること〔4(2)〕

設問4(2)の正答率については、68.8%で、十分とはいええない。要因としては、観察結果と

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
4	(2) 細胞のつくり(核)	68.8%	%

関連付けて細胞のつくりを理解させる指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、植物細胞と動物細胞について、細胞を染色したり、顕微鏡の倍率を変えたりして観察を行い、スケッチを行った上で、例えば端末を活用するなどして画像を比較しながら、共通点と相違点を見いだす学習活動を充実させることが必要である。

【第2分野「地球」を柱とする領域】

(県平均正答率：37.0%) (学校正答率： %)

▼：柱状図と地図を関連付け、地層の傾きを考えること〔5(2)〕

設問5(2)の正答率については、11.7%と不十分である。3年度の関連する設問と比べると1.5ポイント下回り、依然として課題が見られる。要因として、等高線を活用して地層を立体的に捉える指導が依然として不十分であることが考えられる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
5	(2) 地層の傾き【分析・解釈】	11.7%	%

(全)R4：6(3) (県)R3：3(2)

指導に当たっては、身近な地形と等高線や断面図を関連付け、等高線から山の形を立体的に捉えたり、等高線や柱状図から地層のつながりや広がりを考えたりする学習活動を充実させることが必要である。

▼：気象観測の結果から天気を表すこと〔7(1)〕

設問7(1)の正答率については、46.4%で、不十分である。要因としては、降水の状況や雲量から、天気を判断させる指導が不十分であることが考えられる。

設問番号	問題の内容	県平均正答率	学校正答率
7	(1) 観察結果から天気を判断	46.4%	%

指導に当たっては、継続的な気象観測を通して、直接空を見て雲量を判断したり、透明半球を用いて雲量を調べたり、端末を用いて継続的に記録したりするなどの活動を設定し、観測した気象要素から、天気の特徴を捉える学習活動を充実させることが必要である。

指導改善のポイント

- 日常生活における現象を、理科で学習した知識と関連付けて説明する学習活動を充実すること (→ 事例1)
- 原子や分子のモデルを基に、化学変化を化学反応式で表す学習活動を充実すること (→ 事例2)

ア 事例1

日常生活における現象を、理科で学習した知識と関連付けて説明する学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点
2 (1)	第1分野 「エネルギー」 を柱とする領域	重力について理解している。	知識・技能

2 太郎さんと花子さんは、ある国の民間企業が月旅行を計画しているニュースを見て、月の重力について話し合いました。あとの問いに答えなさい。

会話

太郎：月面に降り立つには、宇宙服を着る必要があるね。「宇宙服は質量が120kgある」とニュースでは言っていたよ。宇宙服を着るだけでも押しつぶされそうだね。

花子：大丈夫だよ。だって、「月の重力は地球の重力の約 $\frac{1}{6}$ になる」って読んだ本に書いてあったから、宇宙服を着ても押しつぶされずにすみそうだよ。

太郎：月の重力が地球の重力の約 $\frac{1}{6}$ になるということは、質量が120kgの宇宙服は、月面上では質量が20kgになるということだね。

花子：ちがうよ。約 $\frac{1}{6}$ になるのは重力であって、質量ではないよ。質量は、その物体をつくっている物質そのものの（ X ）だから、月面上でも変化しないよ。

太郎：なるほど。月面では、質量120kgの宇宙服にはたらく重力の大きさは約 $\frac{1}{6}$ になるけれど、宇宙服の質量は120kgで変化しないということだね。

(1) 会話の下線部について、正しく説明している文を、次のア～エから1つ選びなさい。

- ア 空を飛ぶ飛行機には重力がはたらいていない。
- イ 地球上の空気の重さによってはたらく力が重力である。
- ウ 水に浮いている船にも重力がはたらいている。
- エ 物体が地球を引く力が重力である。

正答例	誤答例	
ウ	イ エ ア	
正答率	誤答率	無解答率
49.9%	49.8%	0.3%

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「重力について理解している」であり、正答率は49.9%で不十分である。誤答については、重力について正しく知識を身に付けていない内容や、日常生活で見られる現象と正しく関連付けられていない内容が多く見られた。要因として、日常生活における現象と関連付けながら知識を獲得させる指導や、学んだ知識を日常生活における現象と関連付けて定着を図る指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、理科で学習した知識を使って日常生活における現象と関連付けて説明するなど、定着を図るための工夫や、当たり前だと思われている現象について改めて科学的な目で見直したり、科学的に追究したくなったりするような働きかけを工夫することが必要である。

③ 改善事例 第1学年「力の働き」、「光と音（光による現象）」

1 指導のねらい

理科で学習した知識を日常生活の事象・現象と関連付け、具体例を挙げながら説明する力を育成する。

2 具体例

【第1学年「力の働き」】

(1) 指導のポイント

- ・「重力」について、「重力＝地球が物体を地球の中心に向かって引く力」ということを覚えさせるだけでなく、「物体を地球の中心に向かって引く」とはどういうことなのかを実物を使って体感させたり、身の回りの「物体が落ちる」という現象を科学的に説明させ直したりしながら、日常生活と関連付けて定着を図ることが大切である。

・あまりに「当たり前」すぎて、なかなか重力を実感できない生徒については、「もし、重力がなかったらどうなるか」など、逆の視点で考えさせることも有効である。

※なお、重力を科学的に捉え直す過程で、生徒が「なぜ飛行機は落ちないのか」、「なぜ船は沈まないのか」等の疑問が出る場合は、その問題意識を「浮力」等の他の単元の学習へとつなげることも考えられる。

【第1学年「光と音（光による現象）」】

(1) 単元の導入に、身近な事物・現象を扱い、生徒の疑問を引き出す。



先生はグー、チョキ、パーの何を出しているでしょうか？

先生が黒い板で手を隠して見えないから、分かりません。



黒い板を透明な板に変えるとどうなるかな？

※日常生活の事物・現象を実際に提示したり、ICTを活用して提示したりして、生徒の気付きや疑問を引き出す。



他にも、「ものが見える」ということで、不思議に思ったことはないかな？



水が入ったコップにストローを入れると、ストローが折れ曲がって見えただけ、なぜだろう？



【単元を通した課題】

<ものが見えるとはどういうことだろう>

【ポイント1】日常生活と学習内容をつなげられるような単元の計画を立てる。

(2) 日常生活に見られる現象を、学習した内容を用いて説明する場を設定する。



ものが見えるということは、ものにあたった光が反射して、目に届くからだったね。つまり、ストローが見えるということは、ストローにあたった光が反射して目に届いているからだね。



ストローが折れ曲がって見えるのは、ストローで反射した光に何かが起こったからかな。水の中で反射した光が目が届くまでに何が起きているか調べる必要がありそうだね。

【本時の課題】 <水があると、光はどのように進むのだろうか>

【実験】 光が空気と水を通り抜けて進むときの光の道すじを調べる

【まとめ】 異なる物質の間を進むとき、境界面に垂直に入射した光はそのまま直進する。境界面にななめに入射した光は境界面で曲がり進む向きが変わる。



光が異なる物質の間を進むとき、光は境界面で折れ曲がります。この現象を光の屈折といいます。また、水面で屈折した光の先にもものが見えます。



単元の導入で、Aさんは、水が入ったコップに入れたストローが折れ曲がって見えることに疑問をもっていたけれど、なぜストローは折れ曲がって見えるのかな。

【ポイント2】

生徒から引き出したい言葉や考え方を明確にもつ。

【引き出したい言葉の例】

ストローで反射した光が、水中から空気中へ進むとき、水と空気の境界面で屈折して目に届く。そして、境界面で屈折した光の先にもものが見えるため、ストローは曲がって見える。

予想される生徒の考え	教師
「光が曲がったから」など、学習した用語を用いて説明することができていない。	今日、学んだ内容を用いると、どのように説明できるかな？
「光が屈折するから」など、「ものが見える」ことについての説明が十分ではない。	ストローが見えることについて、追加して説明できるかな？
「光が屈折して目に届くから」など、「光の屈折」についての説明が十分ではない。	目に届く光が屈折することについて、詳しく説明できるかな？
光の屈折は説明できているが、折れ曲がって見えることを関連付けて説明することができていない。	光が屈折すると折れ曲がって見えるのはなぜかな？

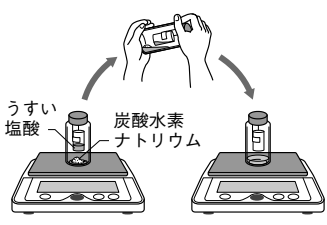
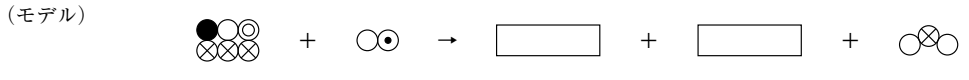
【ポイント3】

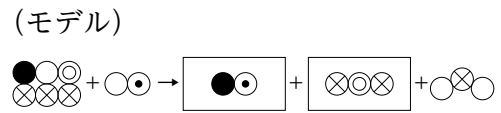
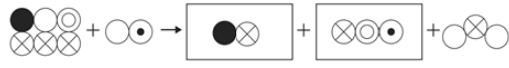
生徒の不十分な説明や誤った説明を、教師が解釈して補完せず、生徒自身がより妥当な説明をつくりだすことができるように問い返しや助言をし、再構築する場を設定する。

イ 事例2

原子や分子のモデルを基に、化学変化を化学反応式で表す学習活動を充実すること

① 問題と解答の状況

設問番号	領域・分野	出題のねらい	評価の観点										
⑥ (3) モデル	第1分野 「粒子」を 柱とする領域	塩酸と炭酸水素ナトリウムの化学変化を、モデルを使って表すことができる。	思考・判断・表現										
<p>太郎さんは、正しく調べることができる方法で実験を行った結果、化学変化の前後で物質全体の質量が変わらないことが分かりました。花子さんは、気体が発生する化学変化でも、同じことがいえるかを確認するために、次のような実験を行い、レポートにまとめました。</p> <p>レポート</p> <p>【実験】 ①うすい塩酸 10cm³ と炭酸水素ナトリウム 1g を容器内に別々に入れて密閉し、容器全体の質量をはかる。 ②容器を傾けて2つの薬品を反応させ、気体を発生させる。 ③反応が終わったら、容器全体の質量をはかる。</p> <p>【結果】 反応前：135.2g 反応後：135.2g</p>  <p>花子さんは、質量の変化について、実験結果とあわせて考察するために、この【実験】でおこった化学変化を、モデルと化学反応式で表しました。</p> <p>(3) 右の表の原子のモデルを使って、下の花子さんのノートのモデルと化学反応式を完成させなさい。</p> <table border="1" data-bbox="1061 896 1292 1075"> <tr><td>水素原子</td><td>○</td></tr> <tr><td>炭素原子</td><td>◎</td></tr> <tr><td>酸素原子</td><td>⊗</td></tr> <tr><td>ナトリウム原子</td><td>●</td></tr> <tr><td>塩素原子</td><td>⊙</td></tr> </table> <p>花子さんのノート</p> <p>(モデル)</p>  <p>(化学反応式)</p> $\text{NaHCO}_3 + \text{HCl} \rightarrow \boxed{\phantom{\text{NaCl}}} + \boxed{\phantom{\text{CO}_2}} + \text{H}_2\text{O}$ <p>(炭酸水素ナトリウム) (塩酸)</p>				水素原子	○	炭素原子	◎	酸素原子	⊗	ナトリウム原子	●	塩素原子	⊙
水素原子	○												
炭素原子	◎												
酸素原子	⊗												
ナトリウム原子	●												
塩素原子	⊙												

正答例	誤答例	
<p>(モデル)</p> 		
<p>正答率</p> <p>40.4%</p>	<p>誤答率</p> <p>41.4%</p>	<p>無解答率</p> <p>18.2%</p>

② 指導改善に向けて

本設問の出題のねらいは、「塩酸と炭酸水素ナトリウムの化学変化を、モデルを使って表すことができる」であり、正答率は40.4%と不十分である。誤答については、反応前と反応後の原子の種類と数は一致させているものの、既習を想起して反応後にできる物質を推測することができなかったものが多く見られた。要因としては、基本的な物質の化学式についての定着が不十分であることや、化学式は物質の最小単位を表していること、その最小単位は原子や分子のモデルを基に表されることなど、見えないものを可視化し、実感を伴う深い学びにつなげる指導が不十分であることが考えられる。

指導に当たっては、モデルを用いて、原子、分子、物質のつくりの基本を押さえるとともに、物質を粒子のイメージで捉える活動や、化学変化を物質や実験結果等と関連付けながら化学反応式で表すという活動を充実させることが大切である。

③ 改善事例 第2学年「化学変化と原子・分子」

1 指導のねらい

化学変化に関する知識及び技能を活用し、原子や分子のモデルを基に、化学変化を化学反応式で表す力を育成する。

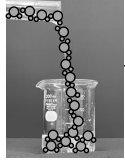
2 具体例

粒子のモデルを用いて、いろいろな物質の基本のつくりや、その基本のつくりが集まって物質ができていることをイメージできるようにする。

図1



図2



※物質を粒子のイメージで捉えられるようにするために、端末等を活用し、図1のような実物の画像に、図2のように粒子のモデルを重ね合わせるなどの活動場面を設定する。

【ポイント1】

モデルを用いて物質のつくりの基本を押さえる。

※単元で用いる物質のつくりのモデルを教室に掲示したり、クラウド上に保存したりして、いつでも確認できる環境を作る。 例：一辺が1mの角材を用いて作った立方体に窒素や酸素、二酸化炭素、水などをつくる。

(1) 学習した内容を活用し、身のまわりの化学変化を化学反応式で表す。



都市ガスでは、メタンという有機物の燃焼を利用しています。燃焼とは、どんな化学変化のことでしたか？

酸素と結び付く反応です。

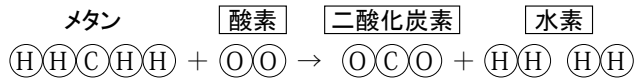


モデルを操作し、メタンの燃焼の化学反応式を考えましょう。メタンの化学式はCH₄、モデルは H(H)C(H)H です。

有機物は燃焼すると二酸化炭素ができるんだったね。



ということは、反応前と後で原子の数は変わらないから、二酸化炭素ができるとすると、他に、水素分子が2つ余るということだね。

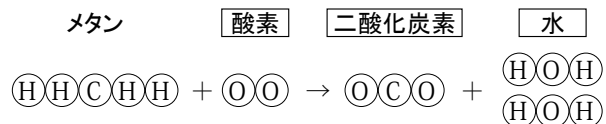


確かに水素が余りますね。でも都市ガスを燃焼させたとき、水素が発生したらどうなるかな？他の燃焼の反応をもう一度思い出してみましょう。

水素が発生したら爆発するんじゃないかな。そういえば、水素原子が含まれているロウを燃焼させたときは、二酸化炭素以外に水が発生したよ。



なるほど、メタンにも水素原子があるから、水素じゃなくて、水が発生する化学反応式にすればいいんだよね。でも水だと反応前と後で原子の数が合わないよ。



【ポイント2】 既習した内容を手がかりとし、化学変化を実体的なものとして捉える。



物質の基本のつくりは変えられないから、メタンや酸素、二酸化炭素、水の原子の数を減らしたり、増やしたりして数を合わせることはできないよ。

【ポイント3】

物質のモデルの操作を通して、物質の基本のつくりを意識しながら、化学反応の前後のようすを考える。



水素原子に着目して、反応後に水分子を2個作ろうとすると、酸素原子が2個足りないよ。だから、反応前の酸素分子を1個増やして、2個にしよう。そうすれば、反応前後で数が合うよね。

【ポイント4】

化学変化による生成物の一部が分からなくても、分かっている情報を基に、モデルを用いて考えることで、発生する物質の予測ができ、実験方法の見通しをもつことができる。

Ⅱ 質問紙調査結果の分析・考察

1 小学校第4学年児童の調査結果

学校が好き、各教科等の勉強が好き、各教科の授業の内容がよく分かると答えた児童の割合は、これまでと同様に、ほとんどの教科・領域で80%以上、高いものは90%を上回っており、全般的に小4児童の学習意欲は、概ね良好である。

学びの12か条 + 4

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている」(93.5%)、「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていたと思う」(83.9%)児童の割合は、これまでと同様にいずれも高い。

学びの12か条 + 8

○家庭での学習時間について、「学校の宿題をしている」(96.5%)児童の割合は、これまでと同様に高い。
 ○「テレビゲームを2時間以上している」(38.5%)、「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを30分以上している」(36.1%)児童の割合は、調査開始以来最も高く、今後、学習面や生活面においてどのような影響を与えるのか注視していく必要がある。
 ○「学校のきまりを守っている」(92.3%)、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」(91.1%)児童の割合は、これまでと同様に高い。

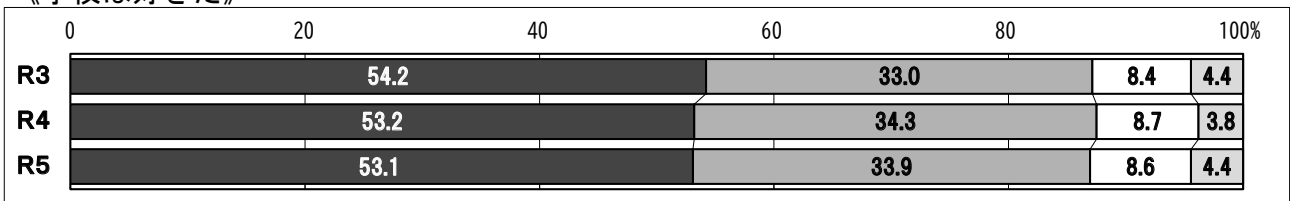
以上のことより、学力・学習を支える基盤づくりについては、概ね良好である。

※無回答を除いた割合で示している。

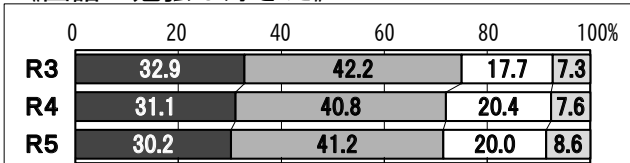
1 学校や各教科等の勉強は好きですか。授業の内容はよく分かりますか。

■あてはまる ■どちらかといえばあてはまる □どちらかといえばあてはまらない ■あてはまらない

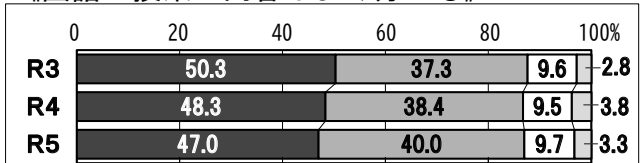
《学校は好きだ》



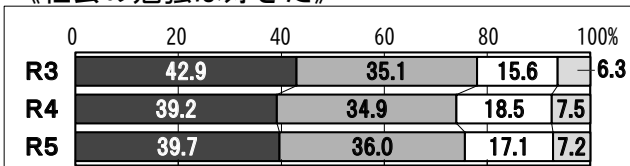
《国語の勉強は好きだ》



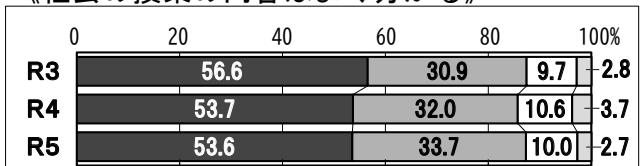
《国語の授業の内容はよく分かる》



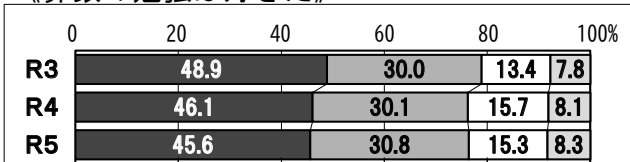
《社会の勉強は好きだ》



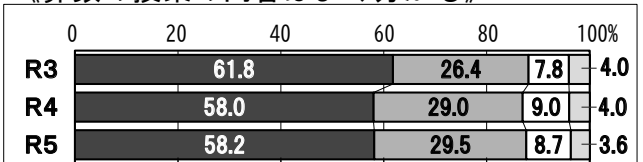
《社会の授業の内容はよく分かる》



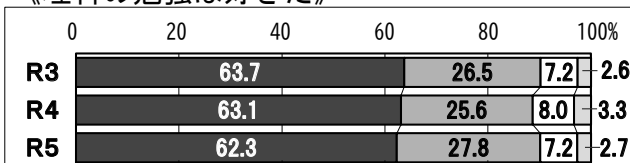
《算数の勉強は好きだ》



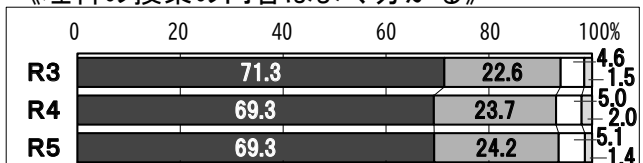
《算数の授業の内容はよく分かる》



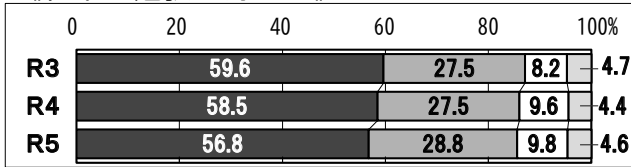
《理科の勉強は好きだ》



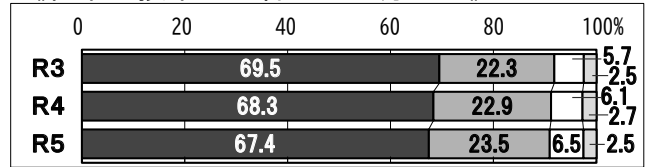
《理科の授業の内容はよく分かる》



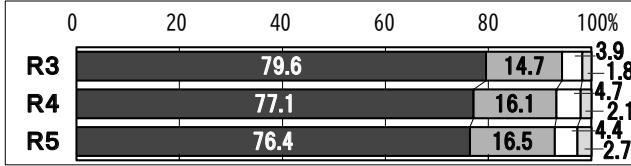
《音楽の勉強は好きだ》



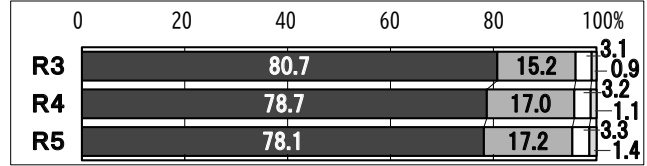
《音楽の授業の内容はよく分かる》



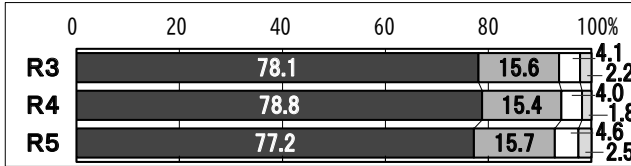
《図画工作の勉強は好きだ》



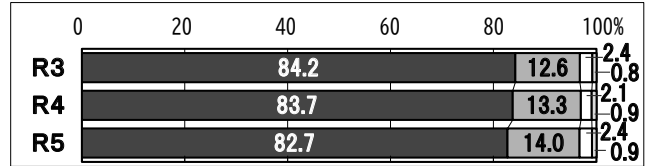
《図画工作の授業の内容はよく分かる》



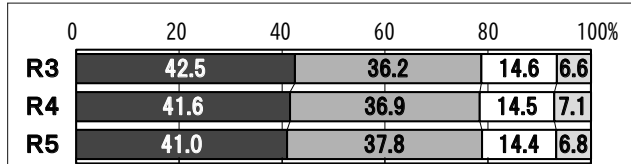
《体育の勉強は好きだ》



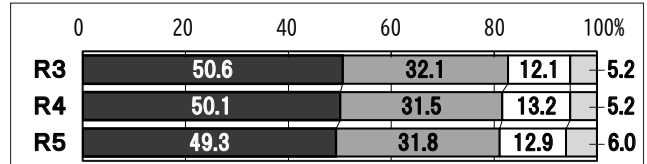
《体育の授業の内容はよく分かる》



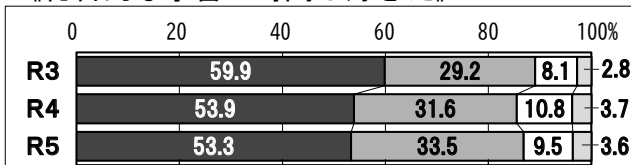
《道徳の時間は好きだ》



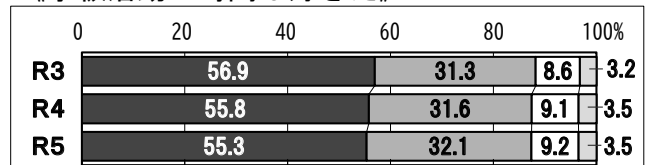
《外国語活動（英語）の時間は好きだ》



《総合的な学習の時間は好きだ》



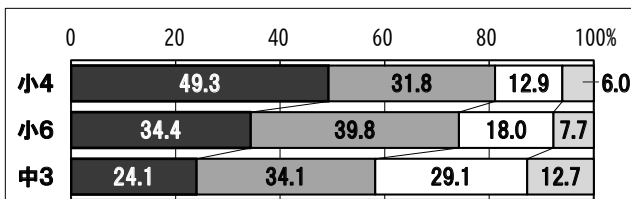
《学級活動の時間は好きだ》



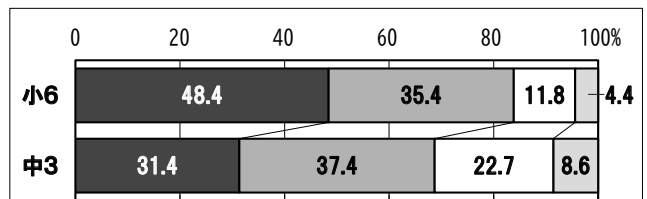
- ・《(各教科等の) 勉強(時間)は好きだ》について、肯定的な回答をした児童の割合は、R3年度からR5年度において、理科で88.7%～90.2%、音楽で85.6%～87.1%、図画工作で92.9%～94.3%、体育で92.9%～94.2%、総合的な学習の時間で85.5%～89.1%、学級活動で87.4%～88.2%であり、高い割合で推移している。
- ・《(各教科の) 授業の内容はよく分かる》について、肯定的な回答をした児童の割合は、R3年度からR5年度において、国語で86.7%～87.6%、社会で85.7%～87.5%、算数で87.0%～88.2%、理科で93.0%～93.9%、音楽で90.9%～91.8%、図画工作で95.3%～95.9%、体育で96.7%～97.0%であり、高い割合で推移している。

<参考>

《外国語活動（英語）の時間は好きだ》（小4）
《英語の勉強は好きだ》（小6・中3）



《英語の授業の内容はよく分かる》（小6・中3）



- ・《外国語活動（英語）の時間は好きだ》《英語の勉強は好きだ》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小4で81.1%、小6で74.2%、中3で58.2%であり、小4と小6の学年間の差は6.9ポイント、小6と中3の学年間の差は16.0ポイントである。
- ・《英語の授業の内容はよく分かる》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小6で83.8%、中3で68.8%であり、学年間の差は15.0ポイントである。

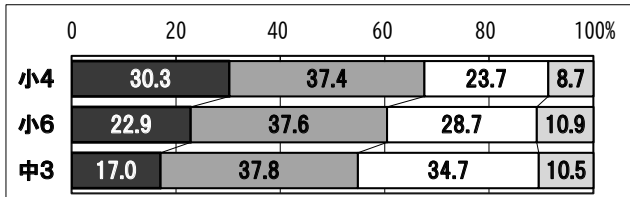
2

授業の中で次のようなことは好きですか。

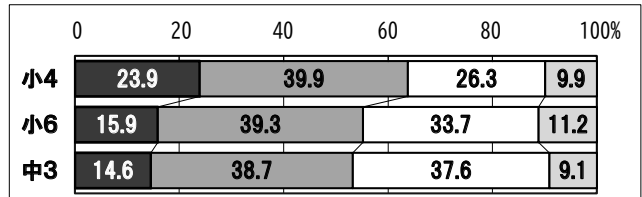
好き
 どちらかといえば好き
 どちらかといえば好きではない
 好きではない

<学年間比較>

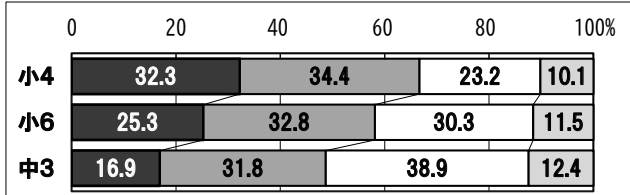
《自分の考えを发表或ししたり、話し合ったりすること》



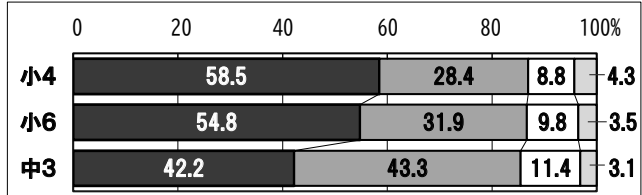
《分からなかったことを、もう一度勉強し直すこと》



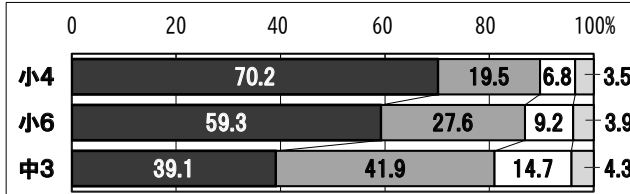
《教科書に出ていないことや、もっとくわしいことを勉強すること》



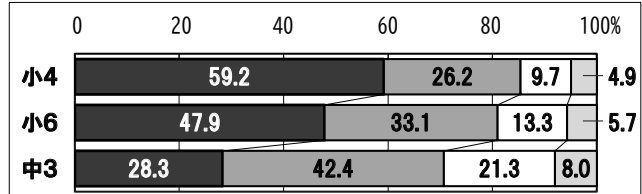
《少ない人数やグループで勉強すること》



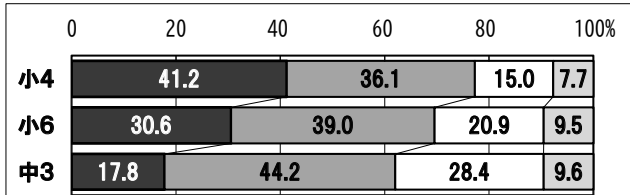
《コンピュータなどのICT機器を使って勉強すること》



《図書館を利用して勉強すること》



《地域の人や専門家から教えてもらうこと》

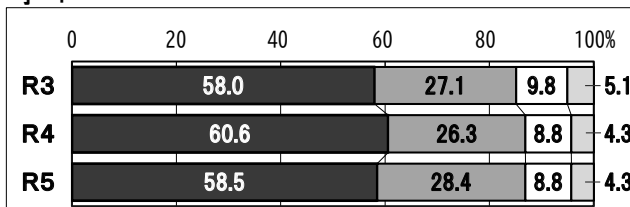


- ・《少ない人数やグループで勉強すること》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小4で86.9%、小6で86.7%、中3で85.5%であり、いずれの学年においても高い。
- ・《コンピュータなどのICT機器を使って勉強すること》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小4で89.7%、小6で86.9%、中3で81.0%であり、いずれの学年においても高い。

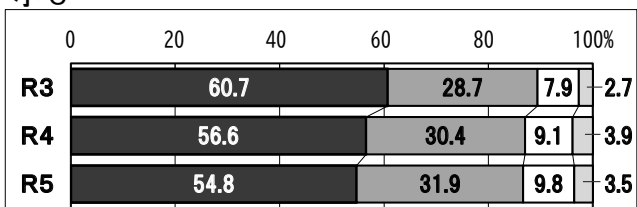
<参考>

《少ない人数やグループで勉強すること》

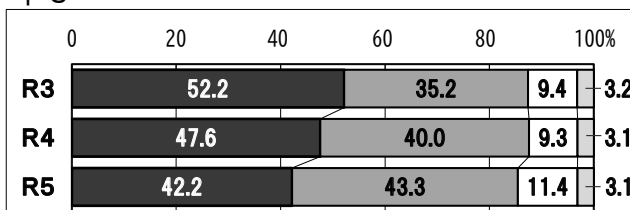
小4



小6



中3



- ・《少ない人数やグループで勉強すること》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、R3年度からR5年度において、小4で85.1%～86.9%、小6で86.7%～89.4%、中3で85.5%～87.6%であり、いずれの学年においても高い割合で推移している。

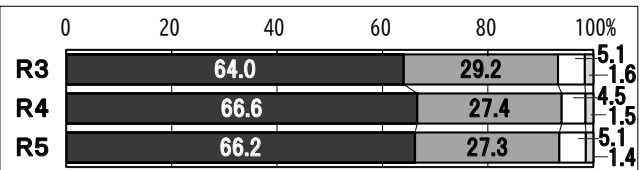
3 次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。

あてはまる
 どちらかといえばあてはまる
 どちらかといえばあてはまらない
 あてはまらない

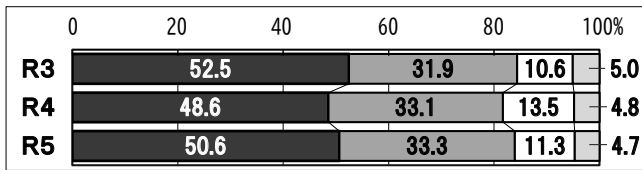
《授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う》
 (※R4年度までは「授業では、課題について自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」)



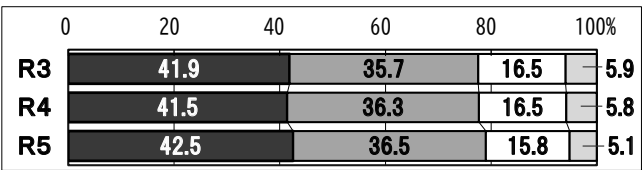
《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》



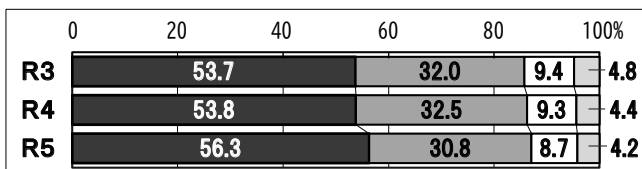
《授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていたと思う》



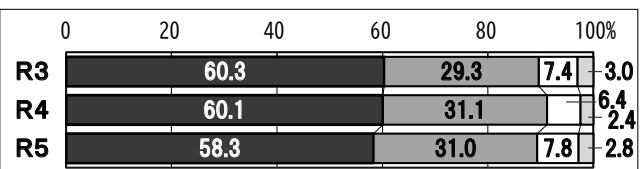
《授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》



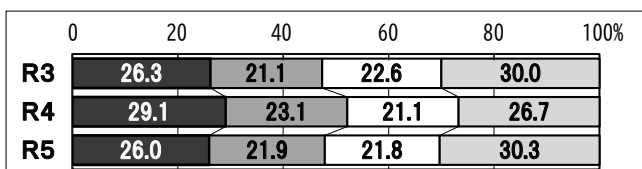
《先生は、あなたのよいところを分かってくれていると思う》



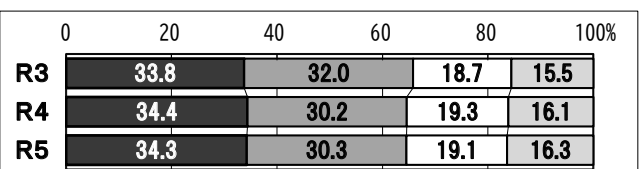
《先生は、授業やテストで間違えたところや、分からないところについて、分かるまで教えてくれる》



《昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校や地域の図書館に週1回以上行く》



《新聞やテレビのニュースなどに関心がある》

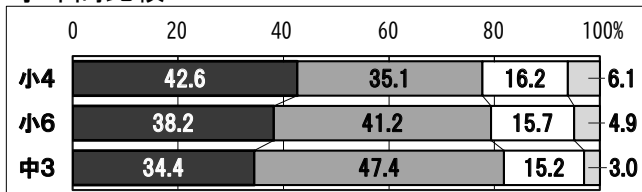


- ・《授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う》について、肯定的な回答をした児童の割合は、76.0%であり、調査開始以来最も高い。
- ・《昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校や地域の図書館に週1回以上行く》について、肯定的な回答をした児童の割合は、47.9%であり、R4年度より4.3ポイント減少している。
- ・《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》の項目については、P.67 参照。

<参考>

《道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う》

学年間比較

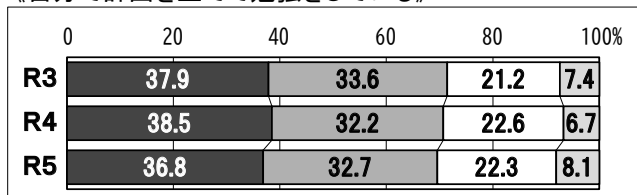


- ・《道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小4で77.7%、小6で79.4%、中3で81.8%であり、小4から中3にかけて増加している。

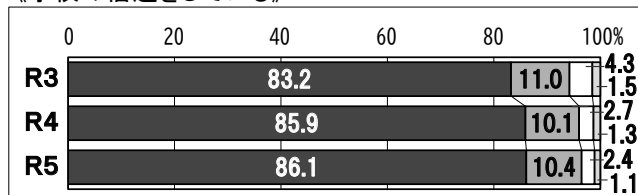
4 家で次のようなことをしていますか。

■ している ■ どちらかといえばしている □ あまりしていない ■ 全くしていない

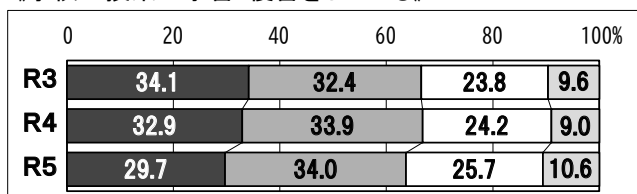
《自分で計画を立てて勉強をしている》



《学校の宿題をしている》



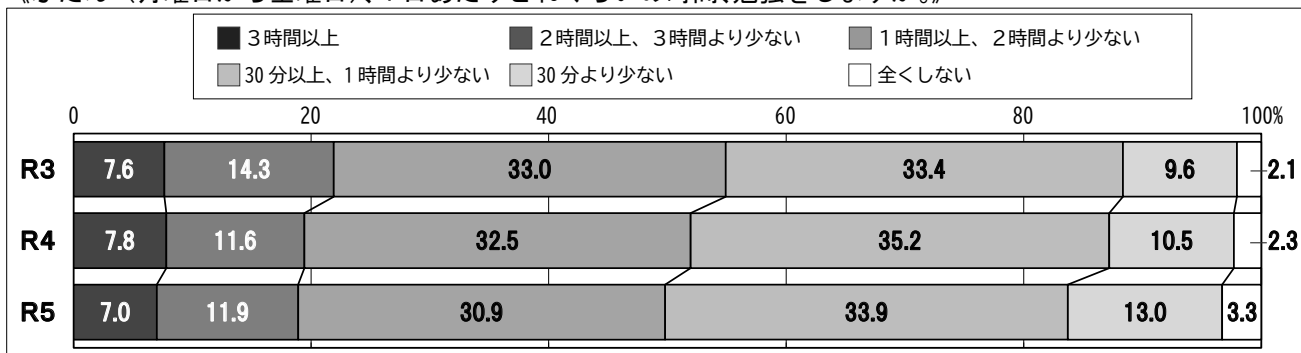
《学校の授業の予習・復習をしている》



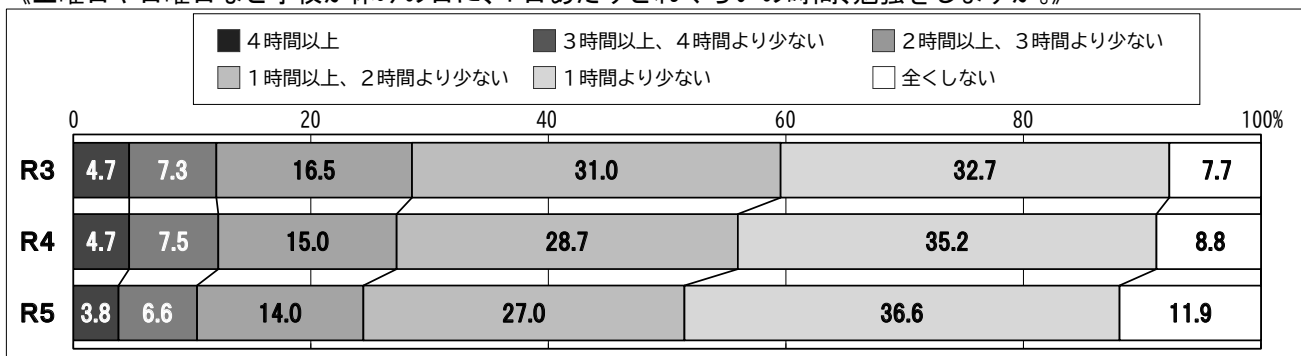
- ・《学校の授業の予習・復習をしている》について、肯定的な回答をした児童の割合は、63.7%であり、R4年度より3.1ポイント減少している。

5

《ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。》



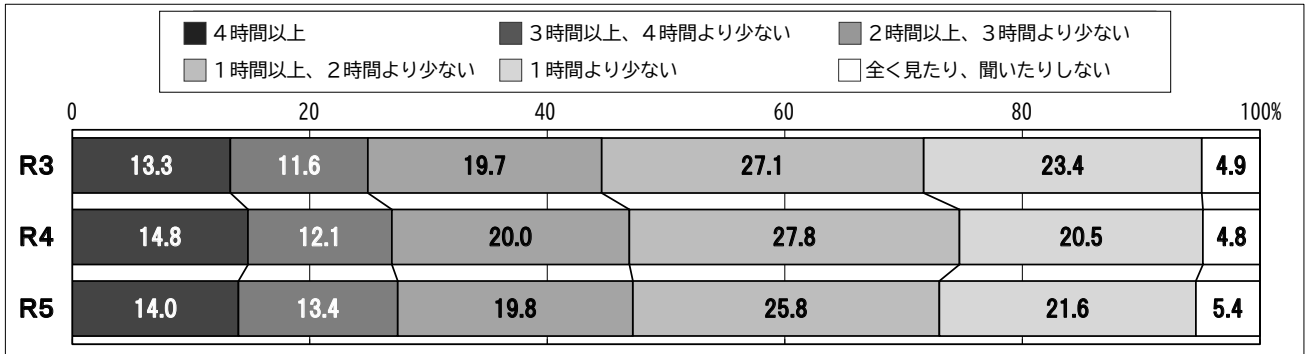
《土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。》



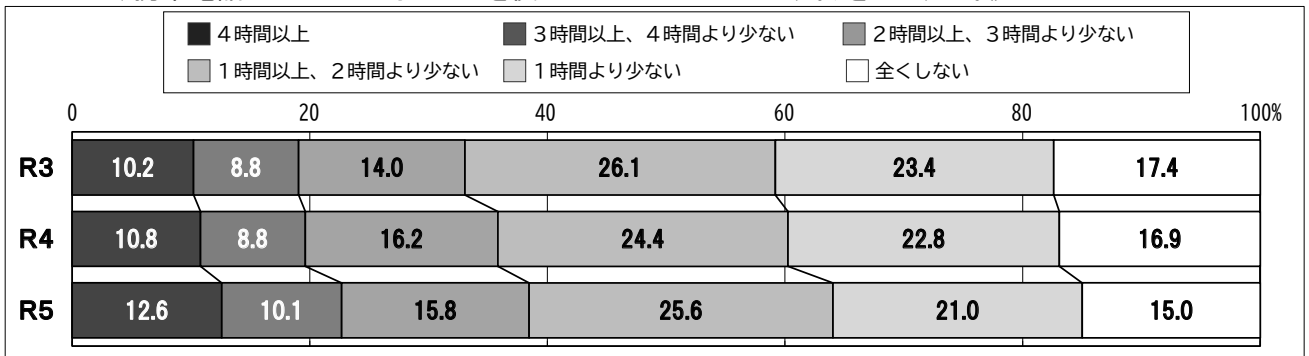
- ・平日の家庭学習時間について、勉強する時間が「1時間以上」と答えた児童の割合は、49.8%であり、R4年度より2.1ポイント減少している。
- ・休日の家庭学習時間について、勉強する時間が「1時間以上」と答えた児童の割合は、51.4%であり、R4年度より4.5ポイント減少している。

6

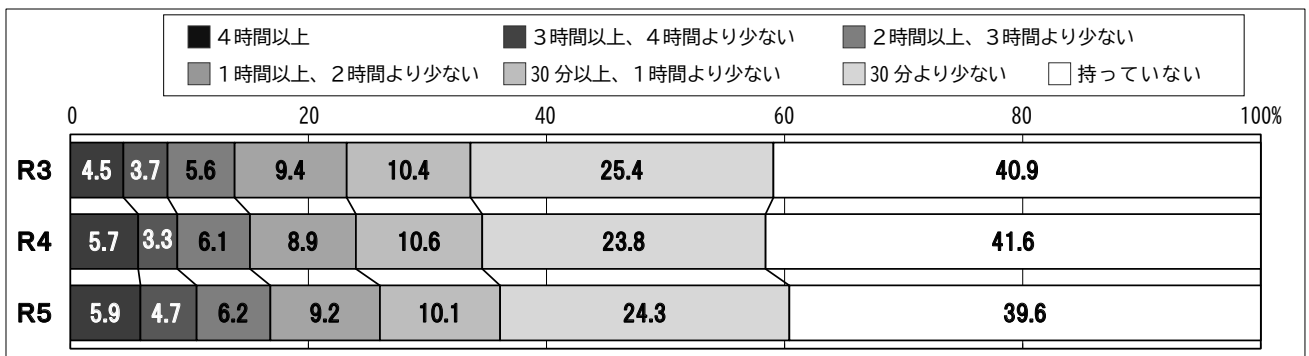
《ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間はのぞきます。))》



《ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンなどを使ったゲームもふくみます。)をしますか。》



《ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンなどを使ってゲームをする時間はのぞきます。))》

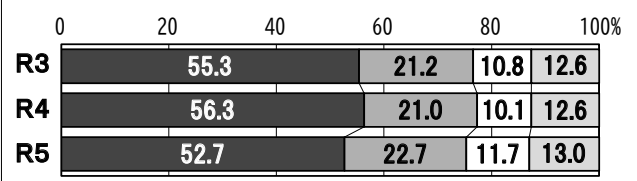


- ・ 普段のテレビゲーム等をする時間について、「2時間以上」と答えた児童の割合は、38.5%であり、調査開始以来最も高い。
- ・ 普段の携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをする時間について、「30分以上」と答えた児童の割合は、36.1%であり、調査開始以来最も高い。

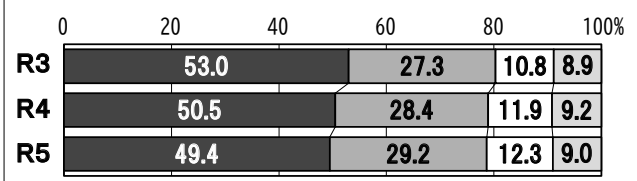
7 次のことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。

あてはまる
 どちらかといえばあてはまる
 どちらかといえばあてはまらない
 あてはまらない

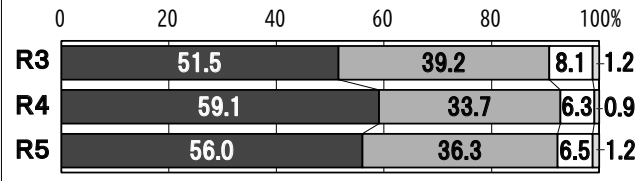
《テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている》



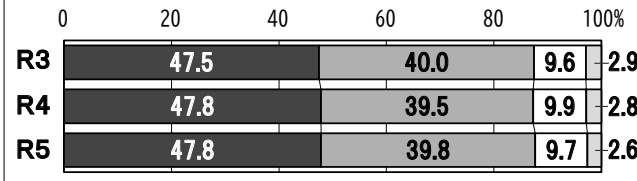
《学校での出来事について、家の人（兄弟姉妹はふくみません）と話している》



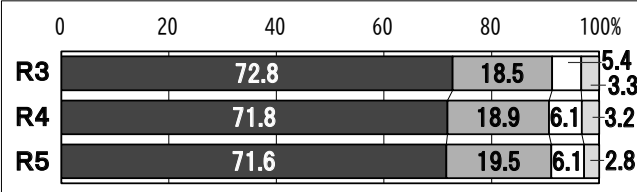
《学校のきまりを守っている》



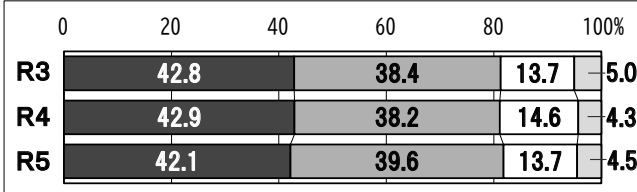
《人が困っているときは、進んで助けている》



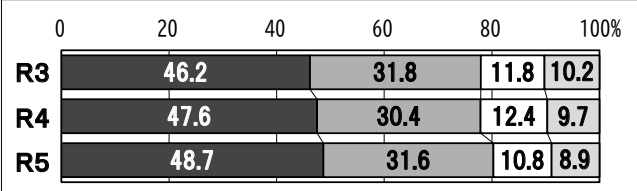
《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



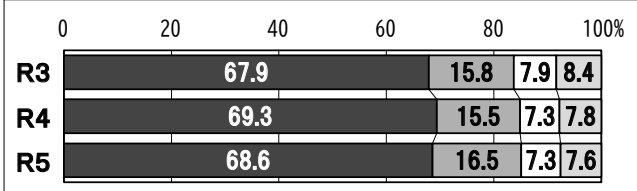
《難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している》



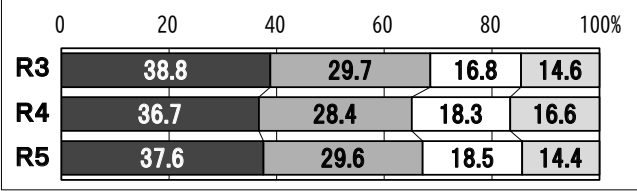
《自分には、よいところがあると思う》



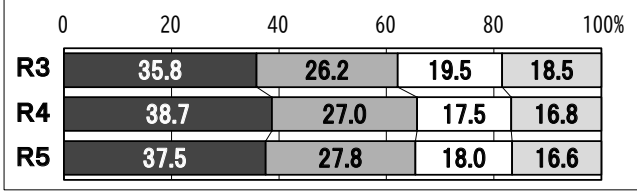
《将来の夢や目標を持っている》



《今住んでいる地域の行事に参加している》



《外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う》



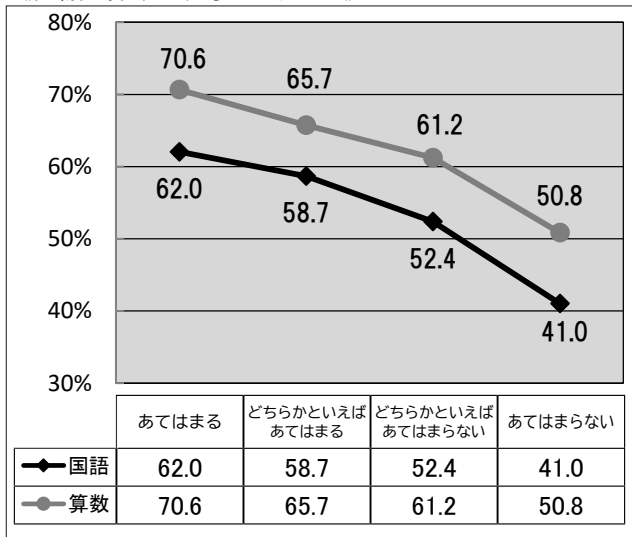
・《自分には、よいところがあると思う》について、肯定的な回答をした児童の割合は、80.3%であり、R4年度より2.3ポイント増加している。

2 学習・生活状況と正答率との関係

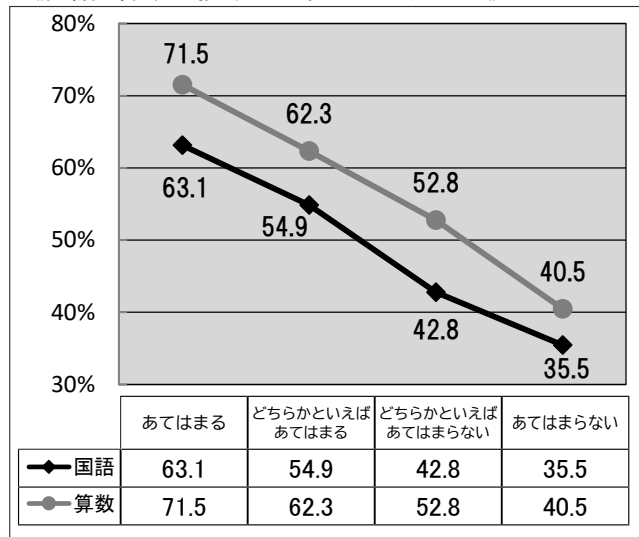
○小4 児童の学習・生活状況について、以下と回答している児童の方が、教科（国語・算数）の正答率が高い傾向が見られる。

- ・国語・算数の勉強は好きだ。
- ・国語・算数の授業の内容はよく分かる。
- ・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。
- ・問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- ・友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている。
- ・授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていたと思う。
- ・授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。
- ・自分で計画を立てて勉強をしている。
- ・ふだん（月曜日から金曜日）、携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをする1日あたりの時間が少ない、または携帯電話やスマートフォンを持っていない。
- ・ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。

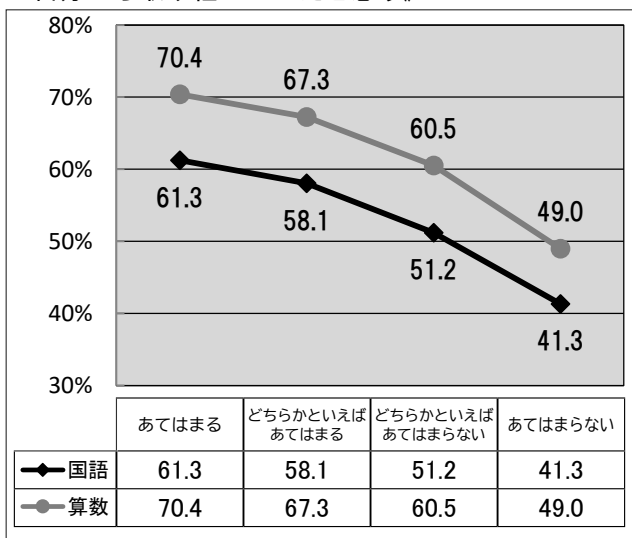
《国語・算数の勉強は好きだ》



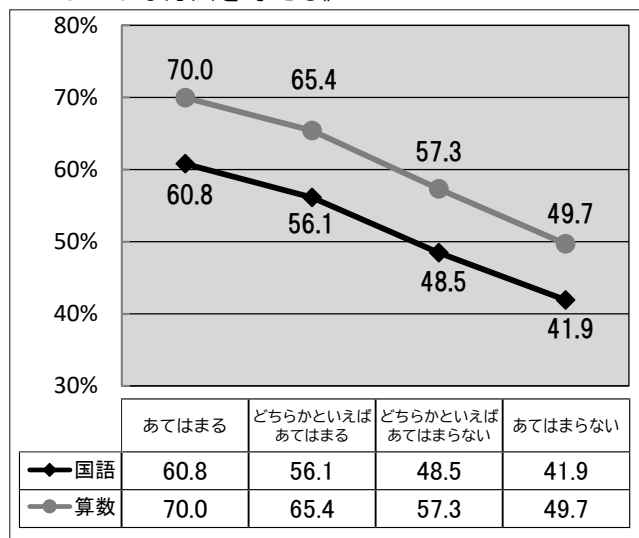
《国語・算数の授業の内容はよく分かる》



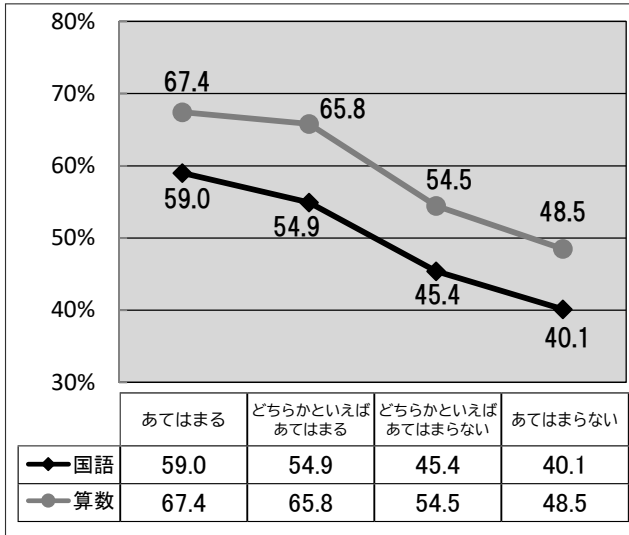
《授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う》



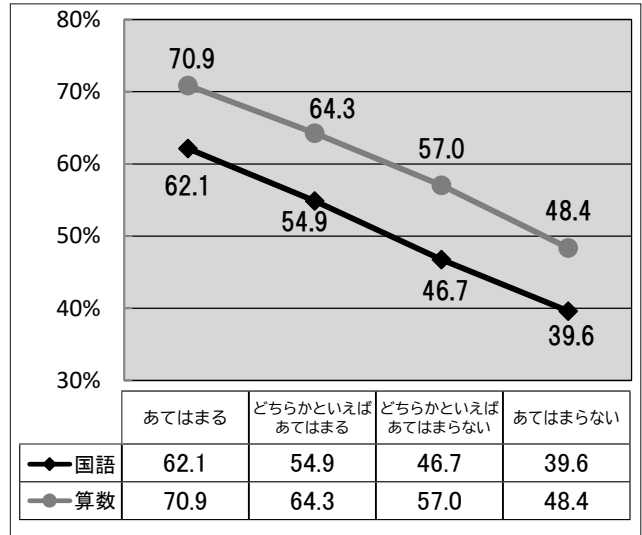
《問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える》



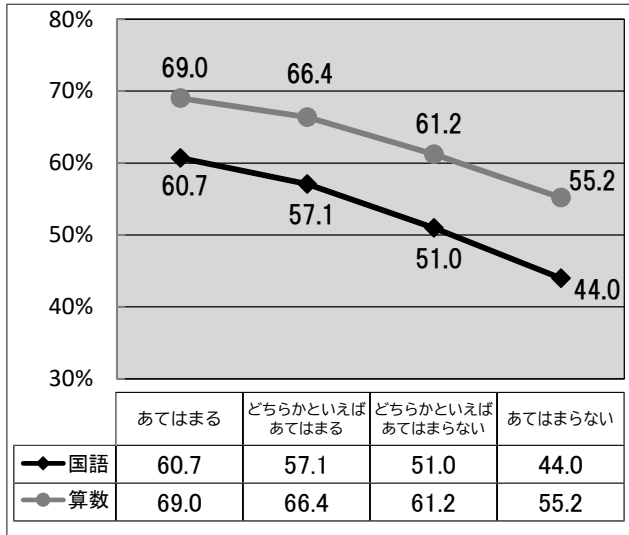
《友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている》



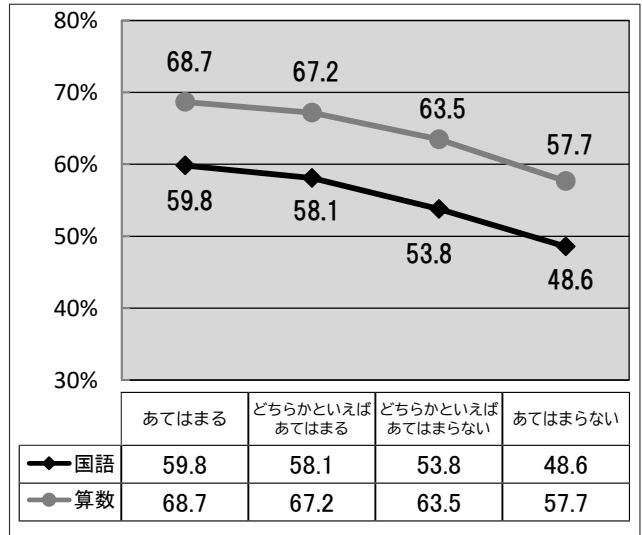
《授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う》



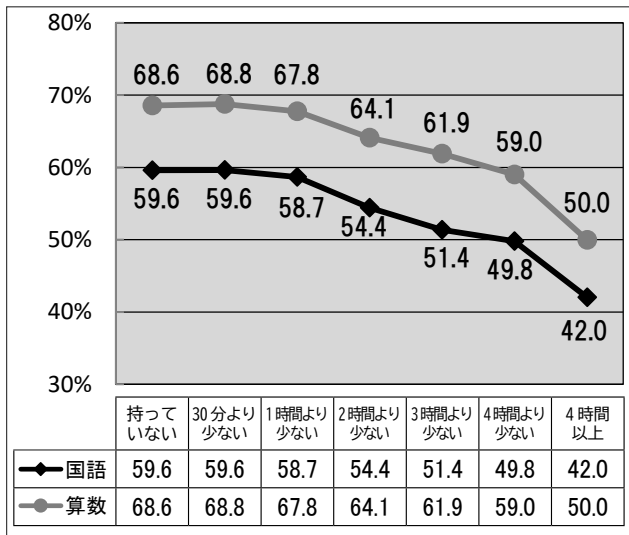
《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》



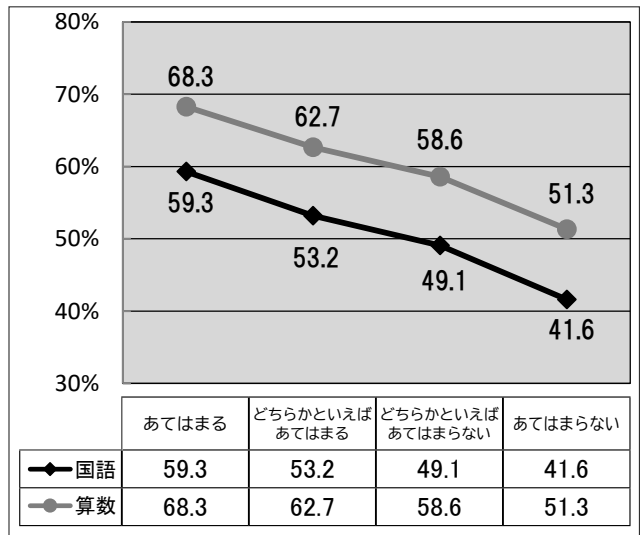
《自分で計画を立てて勉強をしている》



《ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンなどを使ってゲームをする時間はのぞきます。》



《ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある》



3 教員の調査結果

「**1** 学力の重要な要素に関すること」について、肯定的な回答をした教員の割合は、それぞれ90%以上であり、学力の向上に向けた教員の意識は概ね良好である。

学びの12か条 + 1・2

- 「問題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力（思考力・判断力・表現力等）を育成する指導をしている」教員の割合は、小学校では93.3%、中学校では93.0%であり、これまでと同様に高い。
- 「児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている」教員の割合は、小学校では98.0%、中学校では95.6%であり、これまでと同様に高い。

学びの12か条 + 6・7

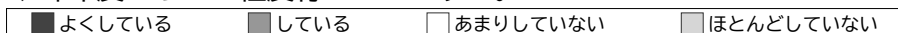
- 「児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている」教員の割合は、小学校では98.0%、中学校では95.9%であり、これまでと同様に高い。
- 「大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を使用した授業を行っている」教員の割合は、小学校で88.0%、中学校で89.2%であり、R4年度より小学校で2.1ポイント、中学校で3.3ポイント、それぞれ増加している。
- 「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した授業を行っている」教員の割合は、R4年度より小学校で2.3ポイント、中学校で5.3ポイント、それぞれ増加している。

学びの12か条 + 10・11

- 「自校の『学力向上プラン』に基づく指導をしている」教員の割合は、小学校では95.1%で、中学校では90.2%であり、これまでと同様に高い。

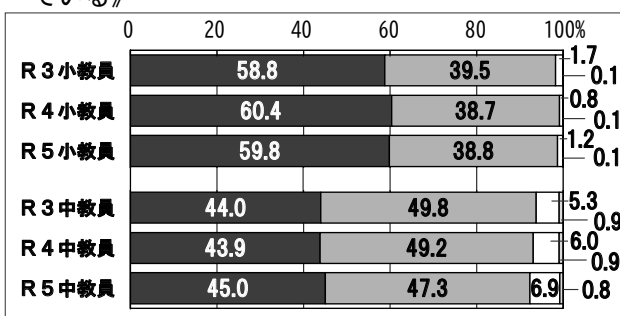
※「回答できない」及び無回答を除いた割合で示している。

次の指導等を、昨年度からどの程度行っていますか。

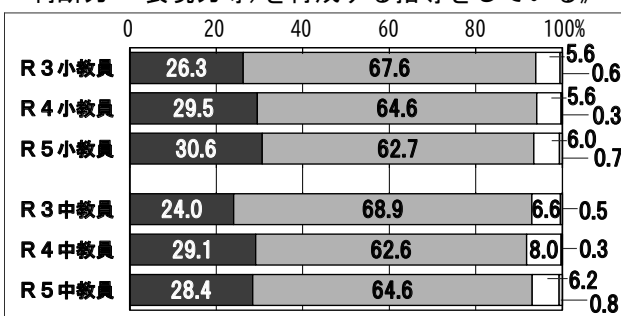


1 学力の重要な要素に関すること

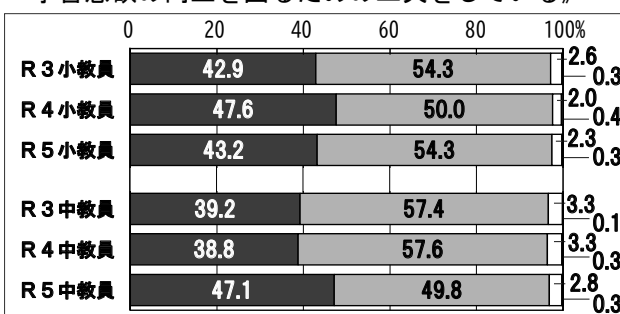
《繰り返し学習（音読、暗記・暗唱、反復学習など）を通して、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っている》



《問題解決的な学習、実生活における様々な事象との関連を図った学習などを通して、活用力（思考力・判断力・表現力等）を育成する指導をしている》



《課題設定や授業展開、教材・教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている》



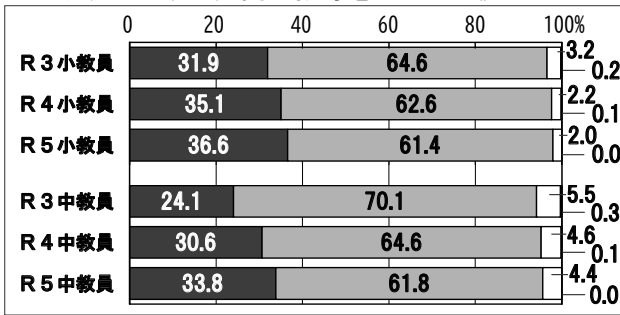
＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

- ・《課題設定や授業展開、教材・教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校97.5%、中学校96.9%であり、これまでと同様に高い。

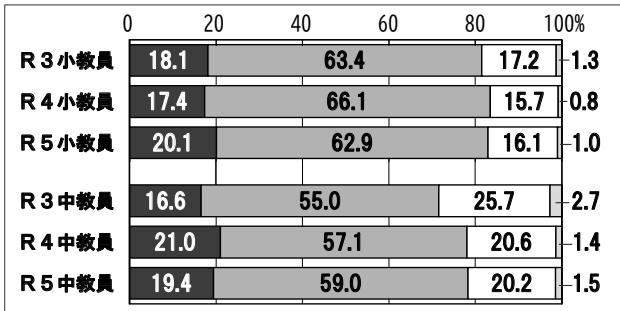
2

教科等に関すること

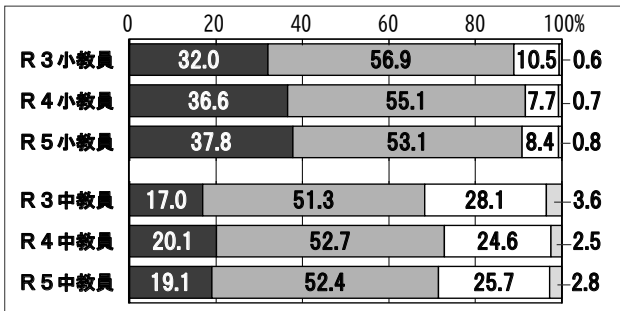
《児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている》



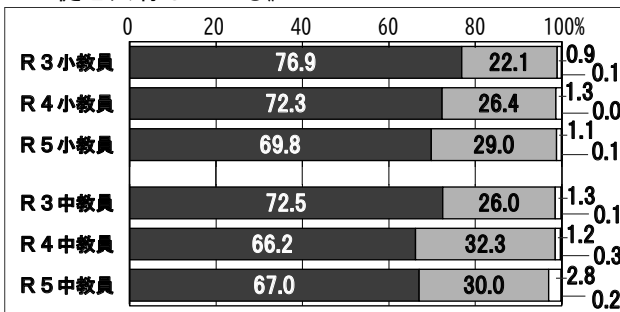
《記録、要約、説明、論述などの言語活動を重視した指導をしている》



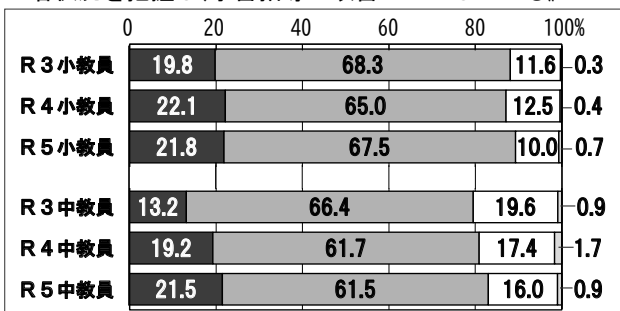
《ノートの書き方やまとめ方などの指導を通して、考え方を身に付けさせる指導をしている》



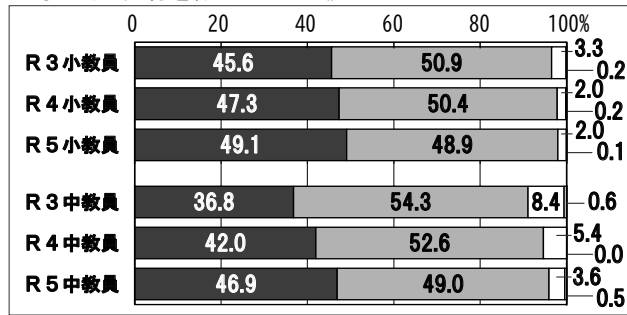
《授業の中で、目標（めあて・ねらい・課題）を児童生徒と共有している》



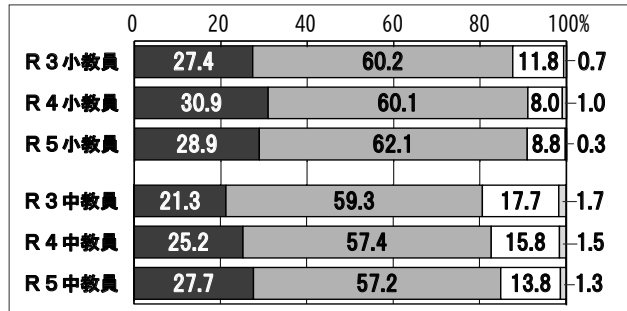
《授業において、明確な評価規準を基に児童生徒の定着状況を把握し、学習指導の改善に生かしている》



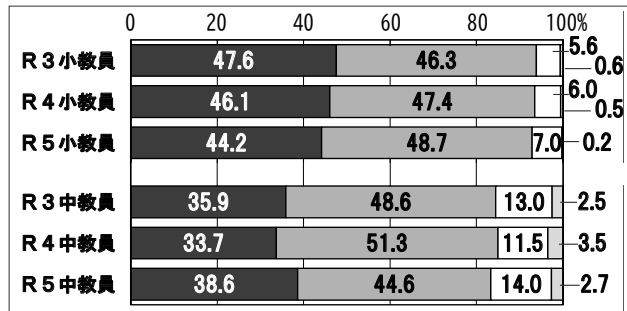
《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている》



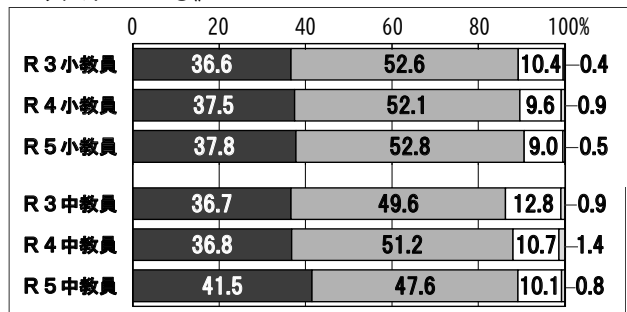
《考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるように指導をしている》



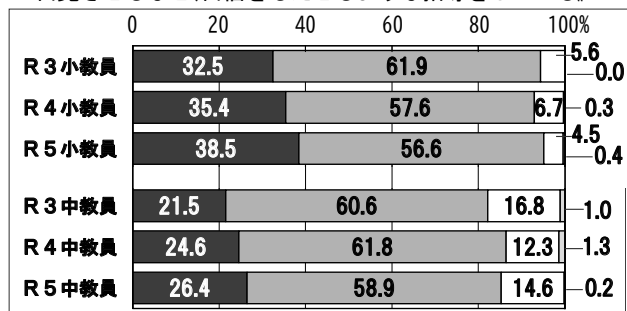
《児童生徒がテストの間違ったところを振り返って学習する場を設けている》



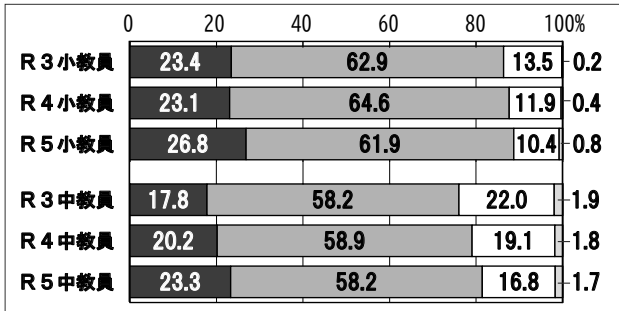
《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》



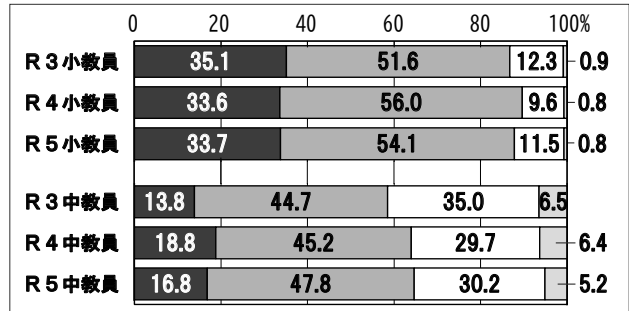
《授業において、児童生徒一人一人に自分の成長や変容を自覚させるなど、自信をもたせるような指導をしている》



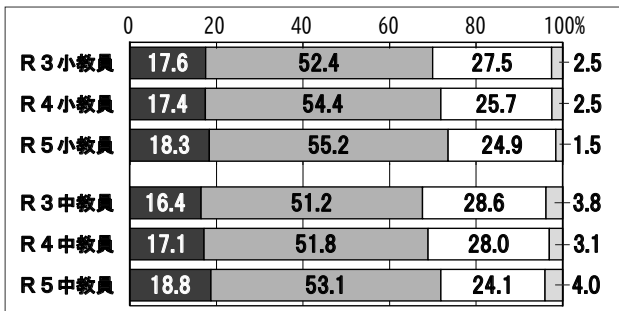
《授業で身に付けたことを課題の解決に活用したり、他教科や日常生活の様々な場面で生かしたりできるように指導をしている》



《個に応じた指導として、習熟の遅い児童生徒に、補充的な学習の指導をしている》

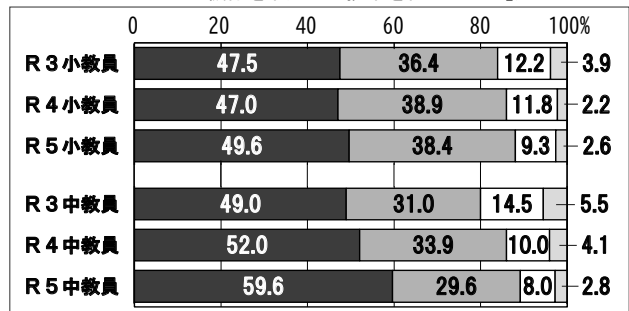


《個に応じた指導として、習熟の早い児童生徒に、発展的な学習の指導をしている》



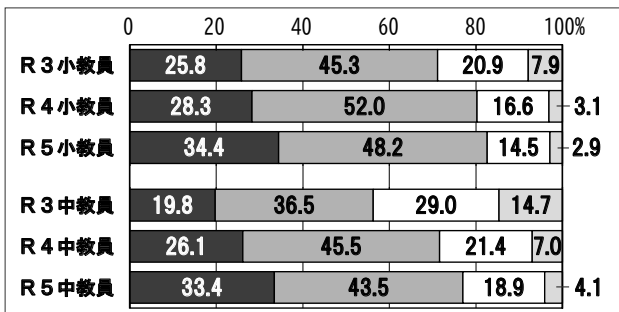
《大型提示装置(プロジェクター、電子黒板など)などのICT機器を活用した授業を行っている》

(※R4年度は「教員が大型提示装置(プロジェクター、電子黒板など)などのICT機器を活用した授業を行っている」)

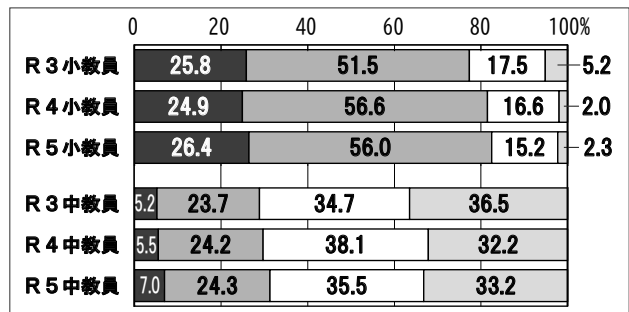


《児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した授業を行っている》

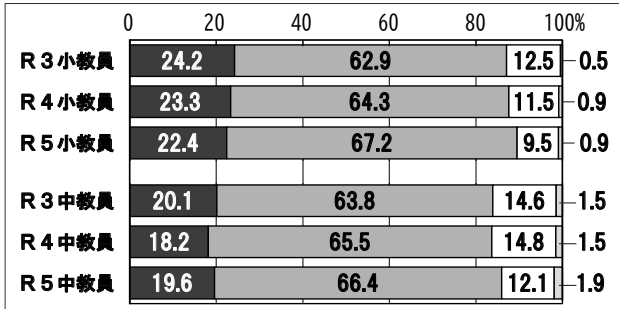
(※R4年度は「児童生徒がコンピュータなどのICT機器を使用した授業を行っている」)



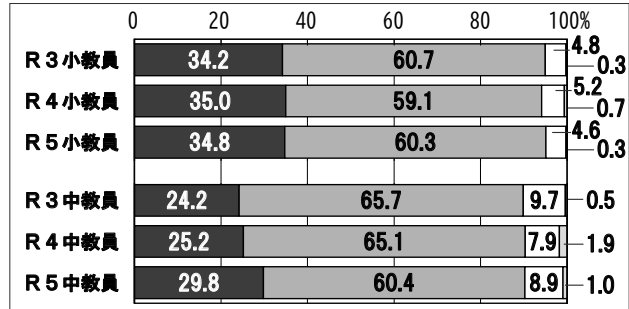
《学校図書館を活用した指導をしている》



《指導計画の見直しや改善に取り組んでいる》



《自校の「学力向上プラン」に基づく指導をしている》



＜肯定的な回答の割合が高い項目＞

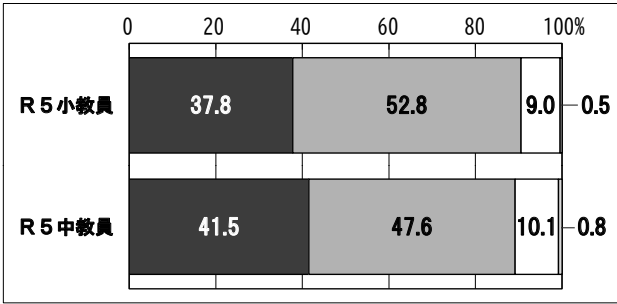
- ・《児童生徒の発言の機会や活動の時間を確保して、学び合う場を設けている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で98.0%、中学校で95.9%であり、これまでと同様に高い。
- ・《授業の中で、目標(めあて・ねらい・課題)を児童生徒と共有している》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で98.8%、中学校で97.0%であり、これまでと同様に高い。

＜R4年度と比べて上昇した項目＞

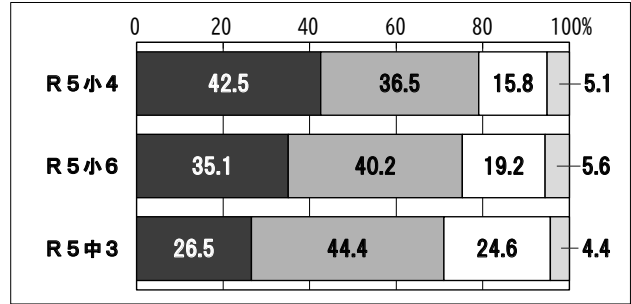
- ・《児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した授業を行っている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で82.6%、中学校76.9%と調査開始以来最も高く、R4年度より小学校2.3ポイント、中学校5.3ポイント、それぞれ増加している。
- ・《大型提示装置(プロジェクター、電子黒板など)などのICT機器を使用した授業を行っている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で88.0%、中学校で89.2%と調査開始以来最も高く、R4年度より小学校2.1ポイント、中学校3.3ポイント、それぞれ増加している。

<その他、留意する項目>

《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》 ※教員質問紙より



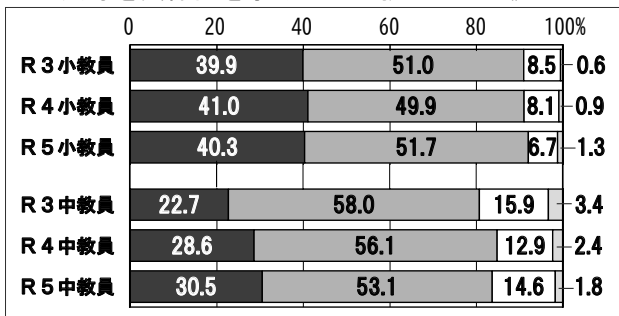
《授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》 ※児童生徒質問紙より



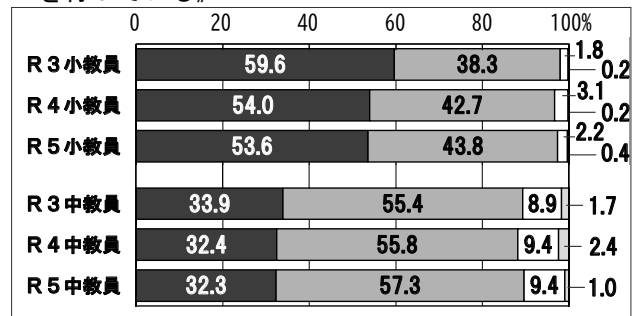
・《授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で90.6%、中学校で89.1%である。また、児童生徒の調査結果では、《授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う》について、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小4で79.0%、小6で75.3%、中3で70.9%である。

3 家庭学習に関すること

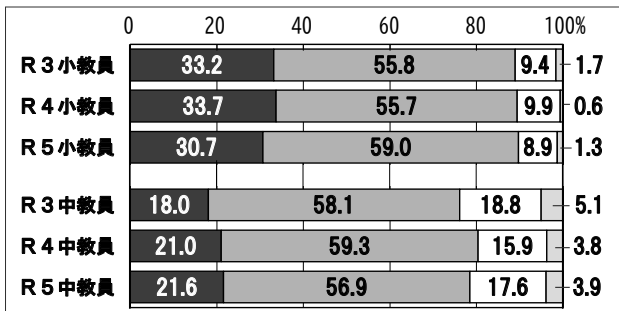
《家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えている》



《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》



《学校・学年・学級単位で、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをしている》

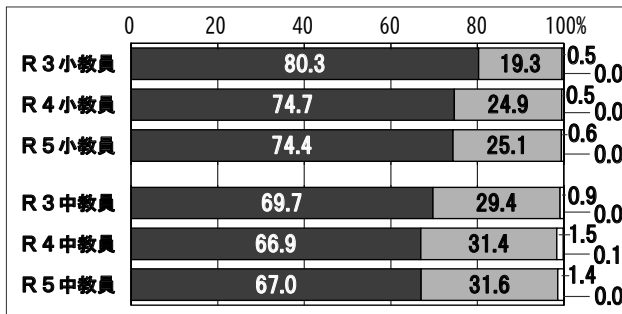


<肯定的な回答の割合が高い項目>

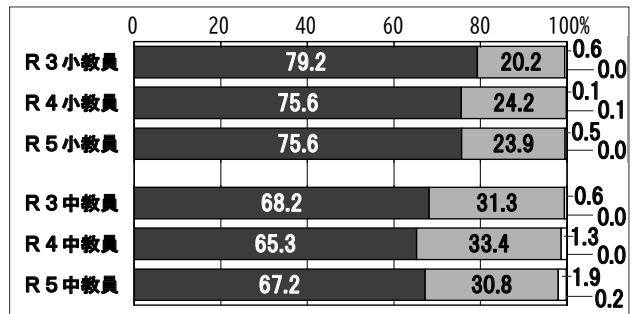
- ・《家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で92.0%、中学校で83.6%であり、これまでと同様に高い。
- ・《児童生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で97.4%、中学校で89.6%であり、これまでと同様に高い。

4 学習規律等に関すること

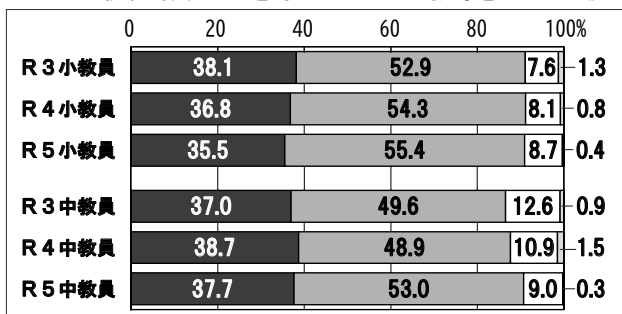
《児童生徒に、学習規律(私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど)を身に付けさせる指導をしている》



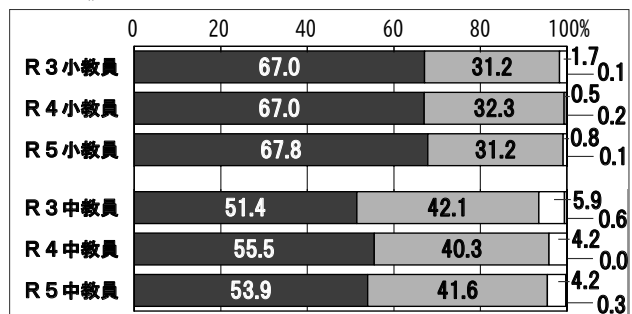
《児童生徒に、校則や集団生活のルール・マナーを守るよう指導をしている》



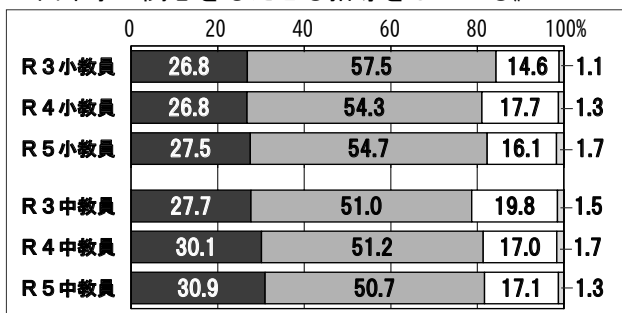
《児童生徒に、基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ご飯・テレビの視聴時間など)を身に付けさせる指導をしている》



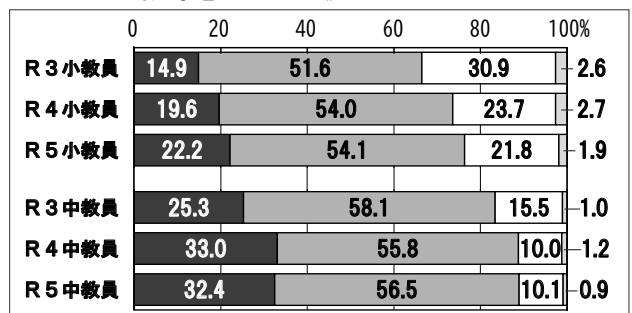
《児童生徒に、進んで挨拶をするよう指導をしている》



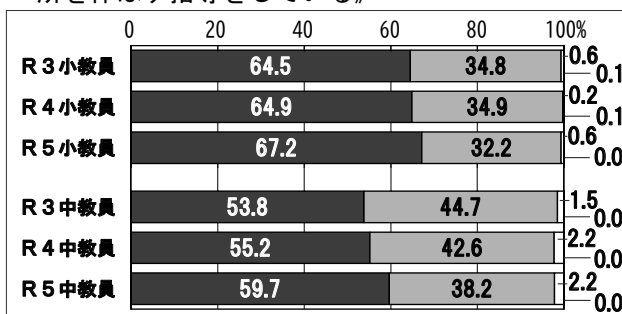
《児童生徒に、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心をもちさせる指導をしている》



《児童生徒に、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている》



《児童生徒を認めたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》



<肯定的な回答の割合が高い項目>

- ・《児童生徒に、学習規律(私語をしない、相手を意識して話す・聞く、授業開始の時刻を守るなど)を身に付けさせる指導をしている》《児童生徒に、校則や集団生活のルール・マナーを守るよう指導をしている》《児童生徒を認めたり、励ましたりしながら、長所を伸ばす指導をしている》について、肯定的な回答をした教員の割合は、小学校で99.4%~99.5%、中学校で97.9%~98.6%であり、これまでと同様に高い。

<R4年度と比べて上昇した項目>

- ・《児童生徒に、基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ご飯、テレビの視聴時間など)を身に付けさせる指導をしている》について、肯定的な回答をした中学校教員の割合は90.7%であり、R4年度より3.1ポイント増加している。

活用力を高める授業づくり

1 物事を多様な観点から考察する力の育成

- ・得た情報を表面的に捉えずに多面的・多角的に検討させ、思考・判断できるようにする
- ・他者と話し合い、問題解決を進めるための情報の送り方、受け取り方が身に付くようにする

2 自ら課題を発見し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成

- ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める
- ・各教科等の文脈の中で身に付ける力と、教科横断的に身に付ける力とを相互に関連付けながら育成する

3 根拠や筋道を明確に表現する力の育成

- ・考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるようにする
- ・思考の過程がわかる書き方や書く内容を明確に示すなど、ノート指導を充実する

学力・学習を支える基盤づくり

4 目的や状況・相手に応じて「聞く」「話す」態度・姿勢の醸成

- ・目的や状況・相手に応じて適切に「聞く」「話す」ことを、低学年から意図的・計画的に指導する
- ・相手や内容に関心を持ち、安心して最後まで聞き合い、話し合う姿勢や態度が身に付くようにする

5 目的や条件に応じて「書く」、必要な情報を「読む」態度・姿勢の醸成

- ・目的や条件に応じ、質や量を考えて書くことができるようにする
- ・文章や表・グラフなどから、必要な情報や価値のある情報を読み取ることができるようにする

6 よりよい解決に向かうための質の高い学び合いのプロセスの重視

- ・多様性を尊重する態度と、互いのよさを生かして協働する力が身に付くようにする
- ・目的やねらいに向け、相互の考えを整理したりまとめ上げたりする技能が身に付くようにする

7 主体的な問題解決のための効果的な ICT 活用の促進

- ・ICT を効果的に活用した分かりやすく深まる授業づくりを進める
- ・学校・地域にあるリソースを生かし、ICT の活用スキルの確実な定着を進める

8 よりよい学習習慣・生活習慣の定着

- ・家庭学習の充実に向け家庭や地域と連携し、よりよい習慣づくりを推進する
- ・豊かな思考・判断の基盤となる子どもの語彙力や読解力を高めるため、読書活動を活性化する

9 家族や地域の人々とのコミュニケーションを促進し、家庭・地域・社会と結び付いた学びの推進

- ・家庭や地域での大人と子どもの共通の体験や学習、対話を促進する
- ・社会の出来事に関心を持たせ、子どもの視野を広げるとともに、将来への目的意識を持つことができるようにする

指導改善を進める体制づくり

10 学力と指導力を持続的・継続的に高める組織づくりの推進

- ・学校全体で目標を共有し、一人一人の役割を明確にして持続的・継続的に課題解決に取り組む
- ・小中連携を推進し、指導の連続性を図る

11 現状把握に基づき、取組の実施・評価・改善を図る指導体制の確立

- ・児童生徒の現状把握からその原因を究明し、目標に照らした課題と、その改善に向けた具体策を設定する
- ・中長期的な目標を設定し実践するとともに、短期的な目標達成に向け、スモールステップで共通実践を行い、検証・評価・改善を積み上げる【学力向上ロードマップ】

12 保護者・地域との積極的な情報共有・連携の推進

- ・学校として保護者や地域に、情報や提案を積極的に発信し情報公開に努め、目標や課題を共有する
- ・地域の諸機関、人材との連携協力を進め、地域の子どもの育てる環境づくりを進める

令和5年度

「基礎学力調査」－分析・考察と指導事例－

令和5年10月発行

石川県教育委員会事務局学校指導課

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

TEL 076-225-1827

e-mail : gakusi@pref.ishikawa.lg.jp